

橋本高等学校

実施日時	令和7年11月13日(木) 6限・7限
参加者	生徒203名、教職員14名 計217名
実施内容	救命救急心肺蘇生法・AEDの使用法、簡易担架による搬送法・ロープワーク、消火活動、パーティション・マイトイレ作成

ねらい

- 1 防災意識の向上と地域防災の担い手を育成する。
- 2 本校が地域の避難場所に指定されていることを踏まえ、自助・共助・協働の精神に基づき、社会貢献できる人材を育成する。

主なプログラム

- 1 救命救急心肺蘇生法・AEDの使用法
- 2 簡易担架による搬送法・ロープワーク
- 3 消火活動
- 4 パーティション・マイトイレ作成

概要

- 1 全校生徒による避難訓練の実施後、各クラスを4班に分け、上記プログラムを各25分でローテーションし、訓練を実施した。
- 2 全行程終了後、全体での振り返りを行い、各ホームルーム教室でアルファ化米と水を配布し、感想文を記入した。

参加者感想文

- ・実際に自分でやってみることで、いざ災害に直面した時に自分でも貢献できると自信がついたので、良かったです。
- ・今回学んだことを今後に活かしていけるように日々防災に関心を持って学校生活を送りたいと感じました。

- ・最低限自助ができるよう日々考えながら生活し、共助に貢献できるよう自覚を持って頑張っていきたいです。

成果と課題

【成果】

今回も橋本市危機管理室の職員や自衛隊、消防士の方々の協力を得て、滞りなく防災スクールを実施できた。その結果、全国や地域の防災の現状を踏まえたより具体的な訓練につながっただけでなく、防災に関する最新の情報や技術も習得することができ、非常に大きな成果であった。また、生徒が実際に体を動かして、主体的に訓練に取り組む姿勢も年々向上しており、さらなる防災意識の向上に努めたい。

【課題】

今年度は地域住民の方の参加はなく、自校だけの実施に留まり、合同で訓練を実施するという形にはならなかった。学校の取組を地域にアピールすると同時に、防災意識の向上を図る必要がある。また、毎年同じような展開にならないように、防災の現状を踏まえ、工夫を凝らした防災スクールにしていきたい。

紀北工業高等学校

実施日時	令和7年10月19日(日)、11月5日(水)
参加者	生徒394名、教職員60名、地域住民等20名 計374名
実施内容	地区総合防災訓練10/19 防災避難訓練、消火器11/5

ねらい

- 1 生徒および職員、地域住民との防災活動における意識の共有と向上を図る。
- 2 避難行動の留意点や災害発生時の対応についての知識、技能の習得。

主なプログラム

- 1 通報訓練
- 2 避難訓練
- 3 災害対応の体験
- 4 消防隊員による講話

概要

- 1 消防本部と連携して災害発生前提の連絡を実施。避難誘導の訓練と点呼確認の実施。
- 2 地域住民の方と様々な防災体験を実施。救急救命行動の体験と消火活動の訓練。最後に消防隊員の講話と校長による感想とお礼と挨拶。

参加者の感想

- 緊張感と楽しさを両方体験できた。実際の災害時にも慌てずに行動できそう。
- 消防隊員の方のリアルな話が聞けてためになりました。

成果と課題

【成果】実際に災害が発生したときどう行動し対応するかを総合的に体験できた。

【課題】実際に災害が発生した時うまく対応するため、訓練の回数など検討する必要がある。

近年、天候に恵まれているが、悪天候の時にどういう訓練になるかがうまく想像できていない。



紀北農芸高等学校

実施日時	令和7年12月19日（金）
参加者	生徒107名、教職員42名、地域住民等7名 計156名
実施内容	ディスカッション、避難所運営訓練、車いす避難サポーター養成講座、 α 米炊き出し体験等

ねらい

- 地震・火災等の有事に備え、防災知識・技術を高める。
 - ・普段、車椅子に乗っている人と触れ合う機会がないので、押すだけでなく、少しの段差でも持ち上げる必要があることを知り、実際に体験出来てよかったです。
- 災害時に相手の立場を考えて、行動できる意識を育てる。
 - ・避難所の運営が難しいことが良くわかった。色々な人がくるので、お互いの助け合いの気持ちが大切だと思った。

主なプログラム

- ディスカッション「災害・防災を知る」
- 車いす避難サポーター養成講座
- HUG 避難所運営ゲーム
- α 米炊き出し体験
 - ・ α 米は火が無くても食べられるのがすごいと思った。

概要

- かつらぎ町社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアの田中秀樹氏、おかい商店様（車いす指導）、伊都・橋本防災士の会（HUG ゲーム）の方々のご協力を得、上記プログラムを実施した。
 - ・自分が避難生活をしているイメージをして食べると、味も良く量もありとても美味しく、感動した。
- 炊き出し体験を通じて被災時の食事や自身の行動を考えることが出来た。

成果と課題

【成果】

- ・生徒の防災意識や準備、助け合いの気持ちの重要性を理解させることが出来た。

【課題】

- ・HUG 避難所運営ゲームは内容が難しく、生徒達は対応に苦労していた。もう少し、ルールが簡単なものが向いている。

参加者の感想

- ・いつどこでどんな災害が起こるかわからない事を自覚して、家族と話あい防災グッズなどを準備したい。

笠田高等学校

実施日時	①令和7年11月5日(水)10:00~10:05 ②令和7年11月12日(水)10:05~11:55 ③令和7年11月12日(水)13:30~14:20 ④令和7年11月19日(水)13:30~14:20 ⑤令和7年11月26日(水)13:30~14:20
参加者	①生徒431名、教職員40名 計471名 ②2学年生徒156名、教職員12名、計168名 ③~⑤2学年生徒76名、教職員4名、地域住民等4名 計84名
実施内容	シェイクアウト訓練、担架搬送法、ロープワーク、避難所運営ゲーム

ねらい

- 1 防災意識を高め、自助・共助の精神を涵養し、自分の命を守り、地域防災のリーダーとなる生徒を育成する。
- 2 実践的な訓練を実施し、災害避難時に役立つ技術を習得する。

1 シェイクアウト訓練

11月5日、10時00分、校内放送によりシェイクアウト訓練の音源を流し、生徒がいる場所で可能な範囲で身を守る訓練を行った。

主なプログラム

- 1 シェイクアウト訓練
- 2 担架搬送法
- 3 ロープワーク
- 4 避難所設営ゲーム

概要

- 1 自校にて実施。
- 2・3 自衛隊和歌山地方協力本部の指導のもと実施。
- 4 かつらぎ町社会福祉協議会の指導のもと実施。



2 担架搬送法

毛布及び約2mの棒を2本使用し、応急担架の展示・説明及び実習。

3 ロープワーク

約1m～2mのロープのもやい結び等の説明及び実習。



4 避難所設営ゲーム

避難所設営ゲーム「HUG」を行った。HUGは災害発生時の避難所運営を体験的に行うことができるゲームで、グループで避難所運営時に抱える課題を体験し、対応策を話し合うことで避難所運営への理解を深めた。



参加者感想文

- もし自分が誰かを運ばないといけなくなった時や溺れている人を助けないといけない状況になった時、今回学んだことを活かしていきたいと思いました。身近なもので工夫をすれば人を助けられると分かって良かったです。
- 棒2本と毛布だけで簡単に担架が作れることができるとか知らなかったから知れて良かった。知れただけで、いざって言う時とか災害の時とかにも使えるなと思ったから覚えておきたい。
- 自衛隊の方が分かりやすく優しく教えてくれたからしっかり覚えて普段からいざという時に使えるようにしようと思った。

成果と課題

【成果】

今年度も昨年度に引き続き、防災スクールを2学年の生徒全員で実施できたことが良かった。参加した生徒は積極的に、真面目に取り組んでいる姿が印象的であった。

【課題】

地域住民の方々に多く参加していただくことが叶わなかった。学校周辺地域全体の防災について、共助の意識を高めるまでに至らなかった。

粉河高等学校

実施日時	令和8年1月28日（水）
参加者	生徒240名、教職員21名、計261名
実施内容	マイトイレ作り、防災ハンドブックでの学習、パーティション作り 避難経路・避難場所・ハザードマップ確認、アルファ化米の配布

ねらい

- 1 日頃の備えや訓練の大切さを学ぶ。
- 2 災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

- 1 マイトイレ作り
- 2 パワーポイントによる学習
- 3 防災ハンドブックによる学習
- 4 避難経路やハザードマップの確認
- 5 パーティション作り
- 6 水・アルファ化米の配布と説明
- 7 振り返り

概要

- 1 新聞紙を使ったマイトイレの作り方を学び、災害時のトイレの重要性を知る。
- 2 パワーポイント資料や防災ハンドブックを見ながら、防災学習をする。
特に「災害時自宅にいた場合の注意点」「外出先にいた場合の注意点」「家族で事前に話し合っておくこと」などを中心に学習する。
- 3 「ハザードマップポータルサイト」で自身の生活圏内がどの災害時に危険なのか確認する。
- 4 パワーポイントを用いて、能登半島地震の概要や南海トラフ地震の被害予想を確認し、非常持ち出し袋の中身や避難に必要なものを確認する。
- 5 体育館でパーティションを作り、実際に中で寝転んでみるなど、思ったより狭く感じたり、隣が気になったりするなど体験する。
- 6 アルファ化米と水を配布し、本日の感想文を書く。



参加者の感想

◆パーティション作り

- 作成にあたり声を掛け合い、協力することの大切さを学んだ。
- 一人一人が自主的に動くこと。
- 他人任せではなく自分たちが動かなければいけない。
- パーティションの重要性を肌で感じられた。
- 意外に広くて快適。
- 人目が気になるが視線を遮れて良かった。
- 寒いし声や音は聞こえるのでストレスが溜まりそうなので、耳栓を準備しておいてもいいかもしれないと感じた。
- プライベートが守られているようで守られていない微妙な空間であり、災害時に経験すると思うと無理だと思った。
- 作成の難しさを実感した。
- 壁は薄く屋根もないので苦しいものだと分かった。
- いざというときは本日の経験を生かし、素早く行動したい。
- 避難者の中には子どもや力の弱い方がおり、私たち高校生が支えていかなければいけないと思った。

◆避難経路・ハザードマップの確認

- 和歌山県防災ナビを知った。
- 避難をスムーズにするために日頃から家族で話し合っておこうと思った。
- 自分だけが安全に逃げるのではなく、家族全員が安全に会えるようにする。
- 今は通行できていても災害時、土砂崩れなどで通行止めになる可能性もあるので予め他の道も確認できて良かった。

- 避難時の持ち物について、整理しすぐ持ち出せるよう置き場所を決めておくようにする。
- 普段から災害に対して準備しておく。
- 災害時の命を守る最も重要な備えになることが分かった。
- 複数の安全なルートを家族間で共有すべきだと思った。
- シミュレーションをしておこうと思った。

◆避難時の持ち物

- 持ち出す物の再確認ができた。
- 家族で置いておく場所の共有をする。
- 缶パンなどをリュックに詰めて準備する。
- 二、三日は過ごせるように必要数を考えて準備すること。
- 一般的な準備物だけではなく、飲み薬や感染症対策もしなければいけない。
- 定期的に持ち物を見直す必要があると分かった。
- 家族の構成に合わせた持ち物を準備するのがいいなと感じた。
- 公衆電話の使い方を調べようと思ったり、親や親戚の電話番号を覚える。
- 準備が大変そう。

◆防災スクールを終えて

- 普段から意識することの大切さを学んだ。
- 実際に自分たちにできる対策や行動を知ることができて良かった。
- 実際のパーティションを見て、どのようにしたら少しでも過ごしやすいのかを考えることができた。
- 日頃から命を守る意識が大切だと学んだ。
- 今回の経験を通して、災害時には冷静に行動しようと思った。

- いつでもすぐに避難できるよう準備しておこうと思った。
- 協力してみんなで生き延びようと思った。
- まだ地震は来ないから大丈夫。という考え方を変えていきたい。
- 知識はあったが、実際経験したことがなかったので良い経験となった。
- 思っていた以上に防災を軽くみていた。
- 改めて防災について考えさせられる機会であった。

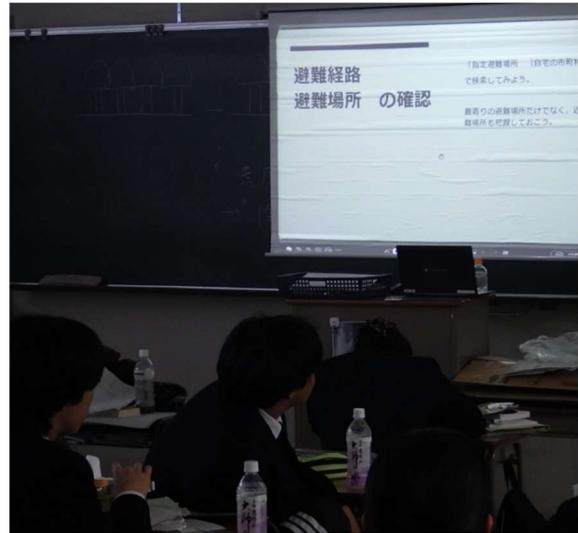
成果と課題

【成果】

いつ大きな災害が起きてもおかしくなく、その際は自分や家族の身を守ることはもちろん、地域の一員として率先して行動しなければならないという意識付けができた。また、生徒は積極的に活動し、知識や経験を積むことができた。体育館で実際にパーティションを組み立てて中に入ってみる体験ができた。

【課題】

学びたいこと、体験したいことが多く1時間では時間が足りなかったため、次年度は2時間取ることができるよう働きかけていきたいと思う。



那賀高等学校

実施日時	令和8年2月6日（金） 13時20分～16時10分
参加者	生徒275名、教職員16名 計291名
実施内容	防災講話、避難所運営ゲーム、救急救命講習、災害時の救援実習

ねらい

防災及び災害時に必要な行動を理解し、実践できるようにする。

主なプログラム

- 1 防災講話（50分）
- 2 班別実習（90分）

概要

1 防災講話

講師 「出張！減災教室」スタッフ

内容 地震・津波の基礎知識や備えについて



2 班別実習

(1) きいちゃんの災害避難ゲーム

講師 「出張！減災教室」スタッフ

内容 ボードゲームを通して避難所運営のポイント等を学んだ。

感想・避難所運営の大変さがわかった。手伝えることがあれば協力したい。

- ・避難所内で必要な配慮や、バリアフリーに気付くことができた。

(2) 救急救命講習

講師 那賀消防組合

内容 傷病者発見時の対応、胸骨圧迫、人工

呼吸、AEDの使用方法等を実習で学んだ。

感想・胸骨圧迫は強く押す必要があり、疲れたら交替すると良いことを知った。

- ・AEDの使用方法を、実際に使って学ぶことができて良かった。



(3) 災害時の救援実習

講師 自衛隊和歌山地方協力本部

内容 救援活動時の止血法、担架運搬法、ロープワーク等を実習で学んだ。

感想・知識だけでなく、緊急時に実践する力をつけることができた。

- ・救援活動のプロから教えてもらったことを、災害時には生かしたい。



貴志川高等学校

実施日時	令和7年 11月 5日(水)
参加者	生徒153名、教職員35名、協力団体等33名 計221名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難訓練、防災ゲーム、AED 使用法、携行食車いす避難サポーター養成講座、ロープワーク、自衛隊車両展示 等

ねらい

1. 近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。
2. 関係機関や地域の協力、連携のもと、防災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得することを目的とする。

主なプログラム

- 1,2年生 防災ゲーム、携行食
ロープワーク、自衛隊車両展示
担架搬送法
- 3年生 車いす避難サポーター養成講座
AED 講習
- 全体 シェイクアウト訓練、避難訓練

概要

○1,2年生・・・防災ゲームを実施。1年生は、地震・津波災害時に、避難場所までたどり着くまでの課題を体験し事前の備えを学ぶことができるゲーム、2年生は、みんなで協力して避難所を運営するゲームをそれぞれグループで行った。また、自衛隊実施の各プログラムも体験し、災害等が起きた際の身を守るための知識、行動を学んだ。

○3年生・・・車いす避難サポーター養成講座を受講。災害時に避難経路上に想定される障害物、コースを体育館に設定し、要配慮者等を安全に避難

場所に移動支援する体験をした。

○紀伊半島に震度7の南海トラフ地震が発生したと想定。教室にいた生徒は、安全確保のために机の下にもぐり、身を守るシェイクアウト訓練を実施した。その後、生徒ホールからの出火に伴い、全校生徒が各教室から各避難経路を利用し、体育館に避難する訓練を実施した。

生徒アンケート

- ・いざという時、勇気を出して今日、学んだこと、経験したことを活かしたい。
- ・去年もAED体験をさせていただいたが、忘れていたので、継続して訓練する必要があると感じた。
- ・シェイクアウト訓練、避難訓練では、避難経路を確認し、落ち着いて速やかに行動できた。

成果と課題

【成果】昨年と同様に各外部団体の協力を得て防災スクールを実施することができた。生徒は各団体の方と交流し、各プログラムに積極的に取り組むことができた。また、事後アンケートの結果、多くの生徒が防災に対する知識や理解を深めることができたと回答した。

【課題】地震や災害はいつ起こるかわからない。常にそれらが発生したことを想定し、どう対応すべきかを訓練しておく必要がある。引き続き、防災に対する意識及び知識を高めるために、様々な防災プログラムを実施していきたい。

- ① 防災ゲームの様子
- ② 車いす避難サポーター養成講座の様子
- ③ 担架搬送法体験の様子
- ④ AED・心肺蘇生法体験の様子
- ⑤ 避難訓練の様子

①



②



③



④



⑤



和歌山北高等学校（北校舎）

実施日時	令和7年11月5日（水）	12月9日（火）、10日（水）
参加者	生徒888名、教職員57名	2年生311名、和歌山市消防協会
実施内容	シェイクアウト、避難訓練、救急救命講習等	

ねらい

- 1 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じた的確な判断のもとに自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- 2 災害発生時及び発生後に、すすんで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- 3 災害発生のメカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。
- 4 実際に災害が発生した際、安全に避難できるように避難経路など確認する。
- 5 救急救命についての講習を受けることで、緊急時に人命救助のサポートができるよう知識を深める。

主なプログラム

- 1 シェイクアウト・校内避難訓練
- 2 防災についての学習
- 3 救急救命講習

概要

- 1 令和7年11月5日（水）2限
全校生徒888名 職員57名
場所（各教室、グラウンド）
 - ・事前にシェイクアウト訓練の内容につ

いて周知するとともに、世界津波の日リーフレットの説明を行う。また、校内避難経路の再確認を行った。

- ・10時の校内緊急放送により直ちにシェイクアウト訓練を開始した。一分間その場で姿勢を低くして頭を守り、無駄な動きをしないよう行動した。
 - ・シェイクアウト訓練後、各クラス避難経路を確認しながらグラウンドに集合し、点呼を行った。
- 2 令和7年12月9日（火）2限、3限
12月10日（水）2限、3限
2年生 311名
場所 体育館 多目的教室
 - ・心停止傷病者を発見したときに大声でほかの人を呼ぶ、119番に連絡を入れる、傷病者を観察する、傷病者に大きな声で話しかけ反応を見るなど、その場でとるべき対応の説明を受けた。
 - ・119番に連絡してから救急車が到着するまで平均7分～10分かかる。救急車到着までの時間が傷病者の生死を大きく左右することを学んだ。
 - ・心肺蘇生法、AEDの取り扱いについて説明を受け、ダミーを用いて実践に取り組んだ。

参加者の感想

- 災害発生時に自分がとるべき行動を学べてよかった。
- 災害は学校にいるときに起きるとは限らないので、地域の防災放送にも気を付けなければならないことが分かった。
- 高校生の力が地域住民を助ける力になることが分かった。
- 夏に津波警報が鳴り響いたことがあった。とりあえず少し高いところに避難したが、津波が来ないか心配になった。津波が発生した時の対応も学んでいきたい。
- 心停止傷病者を発見した時、自分がどのような行動をとればよいのかわからなかった。この講習を受けて少しわかったような気はするが、いざそのようなときに正しく行動できるか自信はない。
- 正しい知識を知ることによって人の命を助けることができると思うので、もしそのような状況に出合った時も落ち着いて行動したい。
- 心肺蘇生は力も体力も必要だと感じた。

成果と課題

【成果】

- 南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、防災意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とし、地震や津波についての理解、防災の大切さについて学習が深まった。
- 心停止傷病者を発見したときに取るべき基本的な行動を確認することができた。

- 今年度より地域の自治会と協力して、地域の高齢者が住んでいる家に声掛けをして安否を確認する訓練を試行的に行った。

【課題】

地域の方の協力の下にハザードマップを作成し、地域の危険箇所を知り、非常時に、高齢者への声掛けとともに、高校生の力が避難者の支えになることができるよう備えていくことが必要である。

11月5日（水）2限 避難訓練



各教室からグラウンドに
避難している様子

12月9日（火）2限



ダミーを使用して心肺蘇生に
取り組んでいる様子

和歌山北高等学校（西校舎）

実施日時	令和7年11月5日（水）
参加者	生徒約500名、教職員約130名、 <u>計約630名</u>
実施内容	下記に記載のとおり

ねらい

- 1 火災や地震の非常時に備えて避難経路を確認するとともに、自分・他人の命を守る行動ができるよう、防災に関する知識をしっかりと修得するとともに、隣接する和歌山さくら支援学校職員との連携を深める。
- 2 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解するとともに、安全な避難方法等を確認しておく。

- ② 大規模な地震が発生、西校舎第2棟1階の調理実習室から火災が発生したことを想定し、防災訓練を合同で実施した。逃げ遅れた児童生徒の捜索・確認、救助活動の訓練を行った。



主なプログラム

- ① シェイクアウト訓練
- ② 合同防災訓練
(和歌山さくら支援学校との合同訓練)

概要

- ① 地震発生を想定し、身を守るための初期動作の確認として、全校一斉のシェイクアウト訓練を行った。



参加者の感想

- ・災害発生時、自分自身で命を守る行動をとることが大切だと思った。
- ・人を助けるために必要な行動がとれるようになりたいと感じた。
- ・学校でいるとき以外も自然災害が起こるかもしれないので、自宅にいるときなどに自然災害が起こったことを想定して、避難場所や避難経路を確認しておきたい。
- ・家族で防災に対する意識を高めるための話し合いをしたいと思った。

成果と課題

【成果】

和歌山さくら支援学校と合同での防災訓練を実施した。両校舎の教職員・生徒とも災害発生時を想定し、迅速に自分の身を守る行動がとれていたように感じる。

近い将来に発生が予想される「南海トラフ地震」をはじめとする大規模な自然災害に対する防災の大切さを再認識することができた。

【課題】

昨年度に引き続き、隣接の和歌山さくら支援学校と合同での訓練を行うことができたが、更に防災の意識を高め、様々な場面を想定した両校での防災教育（学習）を実施していく必要がある。また、引き続き地域全体として災害に備える体制の構築に向け、地域の方々との合同防災訓練についても検討を続けていきたい。

和歌山高等学校

実施日時	令和7年11月12日(水)
参加者	生徒290名、教職員30名 計320名
実施内容	地震津波の基礎講座・地震体験車・止血法・心肺蘇生法 等

ねらい

- 1 災害時の対応力を身につける
- 2 集団行動で協調性やコミュニケーション能力を養い、一体感を高める

主なプログラム

- 1 参加者全員で地震津波の基礎講座受講
- 2 5グループに分かれ見学・体験活動
- 3 実施後アンケートにて振り返り

概要

- 1 和歌山県危機管理消防課の講師先生に来ていただき、地震津波の基礎講座を体育館で実施した。
- 2 生徒は5グループに分かれ、順番に見学・体験活動を行った。ひとつは同課が実施して下さった地震体験車に乗り、残りの4つは陸上自衛隊の方々にも来ていただき、以下のワークショップを開催していただいた。
 - ・止血法
 - ・ロープワーク
 - ・心肺蘇生法
 - ・自衛隊車両展示・災害派遣セット体験
- 3 実施後にアンケートを行い、基礎講座の内容、見学・体験活動を振り返り、災害時に発揮できる素地を養った。

参加者の感想

- ・南海トラフに備えて今回習ったことを忘れずに実践で活かしたいと思った。
- ・災害時の避難バッグをきちんと備えて、いざという時にすぐ行動できるようにしたい。
- ・家族で話し合って避難場所や非常食などいろいろ準備しようと思った。
- ・さまざまな体験や知識を取り入れることはとても大事だと思った、この経験を糧にして災害が起きたときに上手く対応したい。

成果と課題

【成果】

災害や防災についての興味関心を引き出すことができた。今回は特に南海トラフに関して、自分事にとらえ考える良い機会となった。その後の防災に関わる授業でも、これまでにないレベルまで思考が深まった表現が見られた。

【課題】

この形式で2年目の開催であるが、今年はさらに危機管理消防課の方々にも協力いただき質も量も向上した。その結果、非常に有意義な経験ができる機会となっているが、各所の協力があってこそ実現できる活動なので、頼る部分が大きく、今後も依頼して継続的に取り組んでいく段取りが必要になる。

向陽高等学校

実施日時	令和8年3月23日（月）
参加者	生徒約310名，教職員10名，外部講師約10名 計約330名
実施内容	（例）避難所運営訓練，応急手当，マイトイレ作り 等

ねらい

- 1 講義を受けるだけでなく，自ら体験することにより，これまでの学び（理論）を生きて働く知識・技能（実践）に変換し，危機管理意識を育成する。
- 2 「自助・共助・公助」を実践し，地域社会に貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

- 1 炊き出し・配給訓練
- 2 防災グッズ製作，衛生管理訓練
- 3 マンホールトイレ設置見学
- 4 救急法・搬送法
- 5 AED操作要領

概要

- 1 非常食「 α 米」の作り方を確認し，試食する。
- 2 HR教室で防災グッズ（マイトイレ・レインコート・スリッパ）を製作する。
- 3 校内のマンホールトイレの設置方法を見学し，和歌山市職員から説明を受ける。

- 4 自衛隊和歌山地方協力本部から招聘した講師の先生に救急法・搬送法を教授していただき，生徒も実践する。
- 5 自衛隊和歌山地方協力本部から招聘した講師の先生にAED操作を教授していただき，生徒も実践する。

参加者感想文

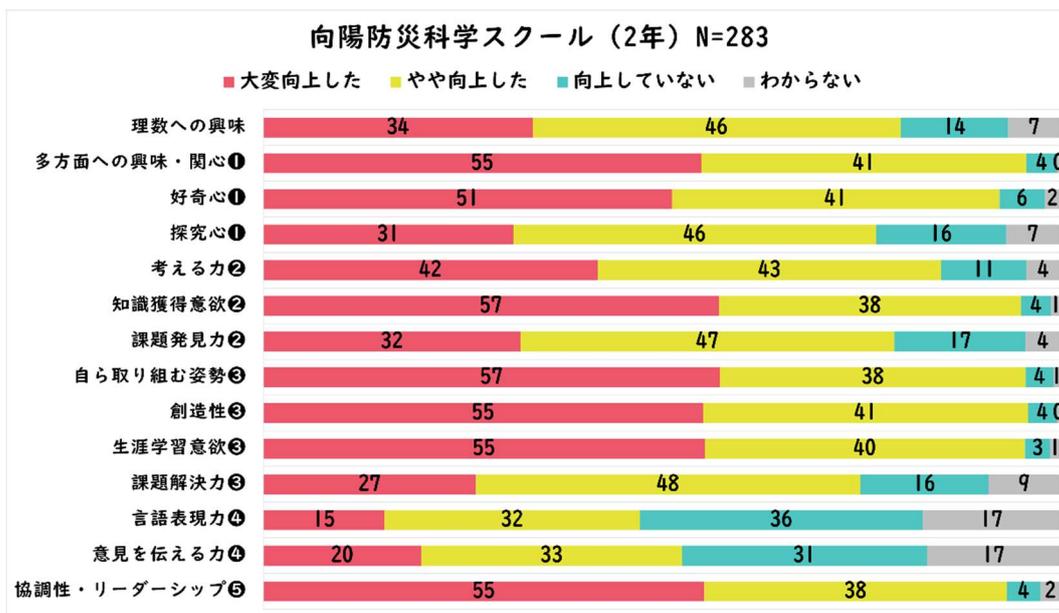
- ・危機的状況に陥ったときのイメージをもっとしようと思いました。
- ・半日を通して防災について学ぶことで，他人事のように捉えるのではなく，実際に起こりうることなんだと意識して日々過ごしていきたいと感じた。
- ・災害に対して備えることの重要性を再認識した。

成果と課題

【成果】例年同様に複数のプログラムを用意し，一定時間で巡回する方式で行った。そのため，生徒は興味・関心を持ちながら集中して取り組むことができた。

【課題】今後は地域住民と連携した活動を模索していきたい。

【アンケート結果】



向陽防災科学スクールのようす

11月にはきいちゃんの災害避難ゲームを用いて「向陽防災科学ワークショップ」（高校2年生対象）を実施しました。

桐蔭高等学校

実施日時	令和7年11月20日(木)
参加者	生徒(高1、高2、高3)823名、(中学1、2、3年)239名 教職員 30名 ※高3は避難訓練のみ参加 計1092名
実施内容	避難訓練(教室待機型)、防災講話

ねらい

- 1 地震・津波の発生時における、緊急避難に対応できる行動力を身に付ける。
- 2 自然災害等の現状及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。

主なプログラム

- 1 避難訓練(教室待機型)
- 2 防災講話

概要

- 1 地震発生時、校舎外への避難が直ちに安全でない場合を想定し、各教室での安否確認・情報報告を迅速に行うための手順を確認する。各教室に封筒を配布(怪我人の被害状況が書いている)し、被害状況を本部に報告する。
- 2 自衛隊和歌山地方協力本部から招聘した講師の先生に防災講話を頂いた。

参加者の感想

生徒

- ・防災バックの重要性を知った。また家具の固定などの重要性を改めて学んだ。
- ・自衛隊は人命救助だけではなく、救援物質の運搬や入浴支援なども行っていると分かった。

教員

- ・教室待機型の避難訓練では、教員が何をすべきかを分析検討する材料となって良かったと感じる。次回の訓練までに教員の行動についての分析・整理を行い、訓練計画を作成することが大切だと感じた。

成果と課題

【成果】

今回の避難訓練では、実際の災害発生時に想定される「負傷者」「過呼吸」「腰が抜けて動けない生徒」などの状況や、悪天候による校庭への避難の危険性、さらには断水・停電の可能性を踏まえ、教室待機型の避難行動を実施した。

教室待機型には、各クラスの状況把握が難しく、情報伝達が滞る可能性があるという課題がある。そのため今回は、どのように情報を集約し、誰がどの役割を担い、どの手順で全体へ共有するかを確認する訓練とし

ても位置づけた。初めての形式であったため一部混乱も見られたが、実践を通して多くの気付きが得られ、教員にとっても非常に学びの多い時間となった。

後半の防災講話では、実際の災害現場の映像を見たり、防災バッグの準備、自分たちができること（自助・共助）について学んだりすることで、生徒が災害をより“自分事”として捉える姿が見られた。「いつ災害が起こるか分からない」という意識が一段と高まり、日頃からの備えの重要性を理解する大きな機会となった。

【課題】

今回の教室待機型避難訓練を通して、休憩時間や放課後など教職員が近くにいない状況で災害が発生した場合の行動基準を、より具体的に整理する必要性も明らかになった。放送機器が使用できない事態も想定し、連絡手段の複線化や教職員が常に携帯電話を携行する体制の検討が求められる。また、大規模災害時には複数の負傷者が同時に発生する可能性があり、特に重症と判断された生徒を速やかに医療につなぐため、校内救急体制、医療機関・保護者への連絡、搬送方法を事前に具体化しておく必要がある。臨機応変な対応に加え、避難訓練時と実災害時で共通する基本的役割分担や対応原則を明確にし、想定外にも対応できる教職員研修やマニュアルの再確認、危険箇所の点検を継続的に行うことが重要であると感じた。



年	A	B	C	D	E	F	G
1年	オロ /シ	+シ X	+シ シ	オロ シ	+シ シ	オロ シ	オロ シ
2年	キ!	オロ シ	オロ シ	+シ X	+シ シ	+シ シ	+シ シ
3年	キ!	+シ	+シ	+シ	+シ	+シ	+シ
中	1A キ!	1B +シ	2A キ!	2B キ!	3A X	3B シ	3C シ



和歌山東高等学校

実施日時	令和7年11月5日（水）
参加者	生徒310名、教職員45名、計355名
実施内容	避難訓練、シェイクアウト訓練、防災学習

ねらい

- 1 生徒の防災意識を高めるとともに、災害発生時の行動についての理解を深める。
- 2 災害時の職員の役割や配置を確認し、避難誘導から避難完了までの動きを確認する。
- 3 郷土の偉人「濱口梧陵氏」の業績を学習し、災害時での自らの命を守る行動について学び考えさせる。

主なプログラム

- 1 避難訓練
- 2 シェイクアウト訓練
- 3 「世界津波の日」濱口梧陵に関する学習

概要

- 1 「防災の日」緊急地震速報の試験配信にあわせての危険回避行動の確認
- 2 各教室からの避難経路を確認
- 3 職員の避難誘導の確認
- 4 防災ハンドブック、「世界津波の日」濱口梧陵のパンフレットを活用して、郷土の偉人から防災を学ぶ

参加者の感想

・和歌山県は地震が多い地域なので、きちんと避難できるように訓練することは大切なことだと思った。

・いつ地震が起きても困らないように普段から避難できる準備をしておく必要があると感じた。
・将来、南海トラフ地震は100%起これると言われているので防災のことをきちんと学び、備えておくのは大切だと思った。

成果と課題

【成果】

・近い将来、必ず起これると予測されている南海トラフ地震の自然災害に向けて、防災意識を高めることができた。
・災害時にとるべき適切な行動や、普段からの備えについて意識させることができた。
・郷土の偉人の業績について知ることができた。

【課題】

・いつ何時に発生するかもしれない地震についての危機管理を、普段の生活に落とし込む働きかけが必要であると感じた。
・地域の避難場所となる可能性があるため、一般の方の受け入れの想定が必要であると感じた。
・大規模災害が予測される中、避難所としての地域や行政との連携をはかる必要性を感じた。
・本校は防災の拠点となりうる立地条件にあるため、災害時にその役割を果たせるようハード面での整備を進めていく必要がある。

星林高等学校

実施日時	令和7年12月5日（金）
参加者	生徒280名 教職員10名 計290名
実施内容	1. 一次救命処置（心肺蘇生とAED）と応急救護講習 2. 土砂災害について学ぶ「紀伊半島大水害被災体験紙芝居」 3. きいちゃんの災害避難ゲーム（津波から逃げ切ろう）

ねらい

災害発生時、安全を確保し敏速な避難行動がとれるようになる。②参加者を主体的に行動させることで、防災意識を高め「自助」「共助」「公助」の精神を養う。③「南海トラフの巨大地震」と「東海・東南海・南海3連動地震」による津波浸水・地震被害想定に対応した避難行動がとれるようになる。

主なプログラム

1. 一次救命処置（心肺蘇生とAED）と応急救護講習

場 所：星武館 柔道場と剣道場

内 容：人形を使った人工呼吸、胸骨圧迫の実技講習、AEDの使用法、止血方法や怪我の手当

2. 土砂災害について学ぶ「紀伊半島大水害被災体験紙芝居」

場 所：視聴覚室

内 容：和歌山県土砂災害啓発センターによる土砂災害のメカニズムに関する講演と語り部さんによる紀伊半島水害被災の講話

3. きいちゃんの災害避難ゲーム（津波から逃げ切ろう）

場 所：体育館

内 容：災害時避難場所へ辿り着くまでに起こる課題への対処法

概要

日 時 令和7年12月5日（金）

場 所 和歌山県立星林高等学校

参加者 生徒1年生 280名 教員 10名

1. 一次救命処置（心肺蘇生とAED）と応急救護講習

対象：100～120名〔各クラス5～6名を2班をつくる〕及び教員2名

協力：日本赤十字社和歌山県支部

2. 土砂災害について学ぶ「紀伊半島大水害被災体験紙芝居」

対象：生徒70～80名〔各クラス8～9名〕及び教員2名

協力：和歌山県土砂災害啓発センター

3. きいちゃんの災害避難ゲーム（津波から逃げ切ろう）

対象：生徒80～90名〔各クラス8～9名〕及び教員2名

協力：和歌山県危機管理消防課

成果と課題

【成果】

一次救命処置（心肺蘇生とAED）と応急救護講習では、各自が救援者として活動ができるよう

に、日本赤十字社和歌山県支部から3名を招き、人形を使った人工呼吸・胸骨圧迫の実技講習に加え、AEDの使用方法を学習した。救急車が到着するまでの間、何をすべきかを知ること、いざという時に役立てたい。加えて、応急救護として止血方法や怪我の手当について学習した。この講習内容では、前半後半の入れ替え制で、2種類の講習を受けることができた。

土砂災害について学ぶ「紀伊半島大水害被災体験紙芝居」では、はじめに和歌山県土砂災害啓発センターの職員による土砂災害のメカニズムについての講演を受け、昨今、頻発する土砂災害について理解を含めた。その後、語り部さんによる紀伊半島水害被災の講話で、実際の被災体験を学習した。土砂災害をより身近なものとして捉え、今後の避難行動につなげていきたい。

きいちゃんの災害避難ゲーム（津波から逃げ切ろう）では、和歌山県が作成した「きいちゃんの災害避難ゲーム」をもちいて、津波から逃げ切るために必要な準備や、知識を学んだ。ロールプレイング形式のゲームで、その時々判断が求められ、どのように行動するべきかを生徒同士で、協議しながら学習を進めることができた。

【課題】

・2/3の生徒は1つのプログラムしか受講できない日程となっているが、これらを組み合わせることで、2つ以上を体験できる編成にしていきたい。

・近隣には小学校・中学校・高校があり、地域住民の方々も含め、災害が起こった場合かなりの混雑が予想される。共同訓練の実施などを検討する必要がある。

・実際の災害時には混乱したなかで活動することになり、いかに緊張感を持って訓練できるかが課題である。

・訓練は、授業中のホームルーム教室を想定していることが多い。体育館・グランド・特別教室、休み時間中なども想定し、教員がその場面にいなくても、生徒1人1人が的確な判断ができるような訓練も必要である。

・「きいちゃんの災害避難ゲーム」は、想定を考えながら学べるため効果的である。時間設定を考慮する必要がある、多くの生徒が取り組めるような展開を検討していきたい。

一次救命処置（心肺蘇生とAED）と 応急救護講習



土砂災害について学ぶ 「紀伊半島大水害被災体験紙芝居」



きいちゃんの災害避難ゲーム （津波から逃げ切ろう）



和歌山工業高等学校

実施日時	第1回 令和7年8月4日(月) 第2回 令和7年11月5日(水)
参加者	生徒 953名、教職員93名 計1046名
実施内容	地震防災についての講演会 シェイクアウト訓練・地震火災避難訓練 等

ねらい

- 1 防災と向き合い、正しい知識・判断力・行動力を身につける。
- 2 災害発生時に身の安全を確保し、すみやかに避難行動に移せるようにする。また「自助」・「共助」の意識を身につけさせる。

主なプログラム

- 1 講演会「地震防災についての基礎知識」
- 2 避難訓練・シェイクアウト訓練
- 3 災害時の対応と役割分担の確認、「世界津波の日」周知

概要

1 講演会「地震防災についての基礎知識」

《教室での講演の様子》

和歌山県危機管理・消防課による「出張！減災教室」を活用し、8月4日の登校日に1年生を対象に講演会を実施。

- ・実施日：令和7年8月4日(月)
- ・場所：各教室(オンライン配信)
- ・対象：1年生 304名、教職員 18名
- ・テーマ：「地震・津波についての基礎知識」
- ・講師：県総務部危機管理局 危機管理・消防課

2 避難訓練・シェイクアウト訓練

緊急地震速報に基づき、強い揺れと大津波警報発令を想定して訓練を実施。

- ・実施日：令和7年11月5日(水)



- ・対象：全学年 953名、職員 93名
- ・内容：シェイクアウト訓練後、本館3階以上への避難



3 避難訓練後の事後指導

世界津波の日（11月5日）の周知および、災害時の行動・役割分担の確認を実施。

- ・実施日：令和7年11月5日（水）
- ・対象：全学年 953名

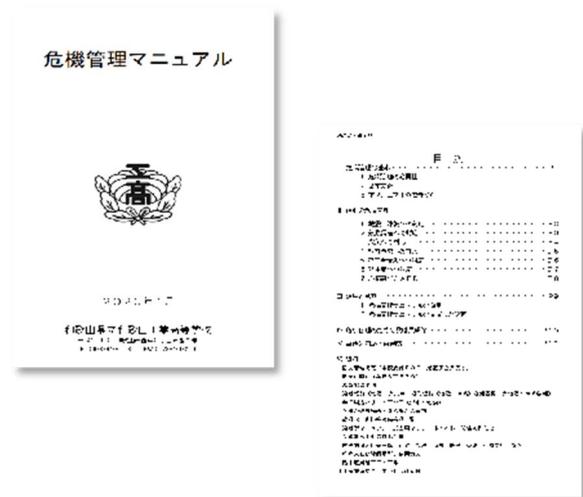


成果と課題

【成果】

- ・教室でのオンライン講演により、快適な環境で学習でき効果的だった。
- ・生徒からは「役立った」との意見が多かった。
- ・実践的な訓練となった。
- ・訓練では「現実的な訓練」「自助」「共助」を重視した。

【課題】



今年度の初めに、昨年度末に作成した「危機管理マニュアル」を全職員に配布して、災害時等の対応について周知を行った。

7月30日には、実際に「津波警報」が発表され、その際に本校は地域の避難場所にも指定されており、近隣の地域住民等約100名が避難してきた。夏期休業中のためクラブの生徒が登校しているだけであったが、管理職を中心に適切な対応を行うことができた。

今後も地域の防災拠点としての役割も踏まえ、生徒自身の身を守る「自助」の避難訓練に加え、地域の方の避難を助ける「共助」の役割も指導していく必要がある。これからの課題としては、本校を取り巻く地域との共同の取組も考えていかなければならない。

和歌山工業高等学校（定時制）

実施日時	令和7年11月5日（水）
参加者	生徒19名、教職員17名 計36名
実施内容	防災学習、防災訓練、避難訓練

ねらい

防災意識を高め、災害発生時に自分の身を守る（自助）とともに、地域の防災リーダーとして地域に貢献する（共助）ことができる能力を育成する。

主なプログラム

1 防災訓練

AED・心肺蘇生法
止血法・応急担架作成
ロープワーク

2 避難訓練

3 防災学習

世界津波の日について
避難カードについて
防災伝言ダイヤルについて 等

概要

1 自衛隊和歌山地方協力本部の協力で、実際に専用の人形を使いながら、AED・心肺蘇生法について体験しました。



次にグループに分かれて、止血法や応急担架の作成、ロープワークを行いました。

【止血法】



【応急担架作成】



【ロープワーク】



2 その後、南海トラフ沖で地震が発生したとの想定で避難訓練を行い、全日制6階に避難しました。



3 最後に防災ハンドブックを活用して、災害に備えて私たちができることは何か学習しました。

参加者の感想

・応急担架を実際に作ってみて、あんなに簡単につくれることに驚いた。

・ロープワークは手品みたいでびっくりした。自分もできるようになって嬉しかった。

成果と課題

【成果】

座学中心ではなく、体験の時間を増やすことで、防災に関心を持つ生徒が増えたように思う。

【課題】

今回の避難訓練では集会室から全員一斉に移したため、非常にスムーズな移動ができたが、生徒が各教室で活動している際に同様の行動がどれ程か課題である。

和歌山商業高等学校

実施日時	令和8年2月5日（木）午前8時50分から午後3時15分まで
参加者	1学年生徒190名、教職員30名、計220名
実施内容	基礎講座、災害避難ゲーム、体験型実習等

ねらい

- 1 近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させる。
- 2 地域防災の担い手として社会貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

- 1 地震・津波についての基礎講座
- 2 災害避難ゲーム
- 3 アルファ米炊き出し・試食
- 4 ロープワーク
- 5 救急法

概要

- 1 和歌山県危機管理消防課の協力のもと、地震・津波に関する基礎知識の習得のための講座を受講した。



- 2 和歌山県危機管理消防課の協力を得て、避難所運営シミュレーションゲームを実施した。生徒が各業務の担当班長として、時系列で発生する避難所内外の課題やトラブルに対応する訓練を行うことで、避難所運営側の業務を理解するとともに、判断能力を養った。



- 3 個包装の非常食（アルファ米）と飲料水を配布・説明後、特設の給湯ブースで各自給湯を行い、試食した。試食後は指定した収集場所でのゴミの一括・分別回収を行った。



4 自衛隊和歌山地方協力本部の協力を得て、基本的なロープの結び方に関する実習を行った。



5 自衛隊和歌山地方協力本部の協力を得て、2種類の講座を実施した。
A班は傷病者発見から一連の行動訓練とAEDを活用した心肺蘇生法の実習を行った。



B班は大量出血に対する処置要領と応急担架の作成・運搬方法に関する実習を行った。



参加者感想文

- ・初期対応の大切さや、周囲と協力することの重要性を強く感じた。今日学んだことを家族や友達にも伝え、日頃から避難経路や備えを意識して行動していきたいと思った。
- ・災害はいつ起こるかわからないと改めて感じました。日頃の備えや正しい知識が、自分や周りの人の命を守ることに繋がると学びました。家族や地域でも防災について話し合うことが大切だと思いました。
- ・特に印象に残ったのは、自分一人が助かればよいのではなく、周りの人と協力することの大切さである。高齢者や体の不自由な人、子どもなど、助けを必要とする人に気づき、声をかけ合うことで被害を減らすことができると学んだ
- ・避難した後にも色んな課題がいっぱいで、みんなで考えて行動したり1人じゃないから協力しないといけないと学んだ。障害のある方もいたり高齢者や赤ちゃんなど色んな人も避難してくるからそこも気にかけて避難しようと思いました。
- ・避難所運営ゲームでは、色々なことに配慮し配置や選択をしないといけないのでとても大変だと思いました。そのひとつの選択でみんなの生活に影響するって考えると安易に答えは出せないと感じました。
- ・避難所の運営側に立つと思っているよりも難しく、意見が全然まとまりませんでした。僕たちは避難する側に回るけれど、避難誘導などの立場になるとちゃんと動けるかどうか分からないな、と不安にも感じました。
- ・避難所を運営する側の人になったとき、体調が悪い人、障害がある人、ペット連れの人、日本語がわからない人など、色々な人がいるので臨機応変に対応できるように考えて配置できるようにしたい。

成果と課題

【成果】

昨年に引き続き、今回の防災スクールでも他機関の協力を得て、体験型の防災教育を行った。昨年は全生徒参加が参加する大規模な防災スクールを実施したため、学年やクラスごとにプログラムが異なり、クラスによって受講できる講座とできない講座があった。

今年度は1学年生徒だけでの実施であったため、全クラスが同一の講座を受講することができた。生徒は具体的な対応要領を学ぶだけでなく、地域防災の担い手としての意識を高めることができた。

【課題】

高校に入学して間もない1学年生徒の防災意識の向上を目的として、様々なプログラムを準備した。昨年はこれからの地域防災の中心となる3学年に避難所運営ゲームを通じて、意識向上を図ったが、これまで自らの命を守ることを最優先してきた1学年の生徒達にとって、避難所運営ゲームは想像がつかない部分があり、少し難しかったように感じられた。

来年度は更に効果的な防災スクールが実施できるようにプログラムを検討する。

海南高等学校

実施日時	令和7年11月4日(火)
参加者	生徒550名、教職員42名 計592名
実施内容	避難訓練(全学年)、マイトイレ作り、アルファ米配布・紹介、防災クイズ(1年)、段ボールベッド製作体験、ロープワーク、AED 使用法、車椅子体験・防災ナビアプリ活用法、クイズで学ぶ防災学習(2年)

ねらい

- 1 近い将来起こると危惧されている南海トラフ巨大地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する知識や技術を身につけ、防災への意識を高める。
- 2 地域の防災を担うリーダーを育成する。

主なプログラム

- 1 避難訓練(全校生徒)
- 2 防災学習
 - 1 学年 防災クイズQ&A
マイトイレ作り
アルファ米紹介
海南市危機管理課による講演
 - 2 学年 防災ナビアプリ活用法
ロープワーク
クイズで学ぶ防災学習
心肺蘇生法・AED 使用方法
段ボールベッド製作体験
車椅子体験

概要

- 1 避難訓練(全校生徒)

休憩時間中に緊急地震速報が発表され、地震が発生したという想定のもと、全クラスでシェイクアウト訓練を実施した。全校生徒が教員の誘導により避難経路をとおり

避難場所であるグラウンドへ避難した。全員の避難完了、点呼確認のあと海南市消防署職員から訓練についての講評を聞いた。



- 2 防災学習(避難訓練の前後で実施)

1 年生はHR教室でP.P.を用いた防災クイズQ&Aを実施し、災害への備えや減災のための具体的な方法を学んだ。また、ボラ

ンティア委員が中心となり、新聞紙を用いたマイトイレ作りを行った。各教室でアルファ米を紹介し、感想を共有した。

2年生は、体育館にて防災実技講習を実施した。6つのブースから2つのブースを選び、体験活動を通して防災・減災に関する知識技能を学んだ。

参加者感想文

- ・予告無しでの避難訓練は始めてだったので、本当に避難すべきか迷った。誤放送かと思った。
- ・トイレに居て放送が聞き取りづらかった。また、すぐに避難した方が良いのか、少し待機した方が良いのか分からなかった。
- ・実際、エレベータの中や電車内で地震が起こった場合どのような状態になるか想像がつかない。おそらくパニックになると思う。
- ・体育館からの避難出口が混雑していた。他の避難出口が目に入らなかった。改めて日頃からの備えの大切さについて気づくことができました。
- ・家族がバラバラに居た場合のことを考えると怖い。しかもスマホが使えないと考えると…

成果と課題

【成果】

避難訓練は、事前の生徒への予告なしに休憩時間帯に実施した。廊下において、低い姿勢で身の安全を確保しながら、指示を待っていた生徒や、放送の聞こえにくい場所において、状況が把握できない生徒もいた。臨機応変に避難することの実践となった。1年生では防災クイズと生徒を中心としたマイトイレ作りを行った。海南市危機管理課による講演「被災した際、高校生に求めるもの」

を聞いた。また、2年生では避難所運営時の問題点や高校生ができることについて意見交換を行った。災害の備えをし、災害時には今回学んだことを少しでも実践したい等の感想が多くみられ、防災意識を高める機会となった。

【課題】

雨天の場合は、津波を想定して全校生徒は近くの階段から3階・4階に避難することになっているが、好天に恵まれ、階上への訓練はできていない。予期せぬ事態に対応できるような訓練を今後も取り入れていきたい。生徒の防災意識は高く、どの体験も熱心に取り組んでいた。シェイクアウト訓練の際に、グラウンドに避難したのち、さらにその後の行動を想定し高台に上がることや、校舎の上階に上がる訓練も行ってはどうかということと、避難訓練の回数を増やしてはどうかとの意見もあり、検討していく必要がある。

海南高等学校大成校舎

実施日時	令和8年3月5日（木）
参加者	生徒60名、教職員11名、計 71名
実施内容	簡易担架作成訓練、消火器操作訓練、防災学習 等

ねらい

1. 頻発する自然災害に対する知識や心構えについての学習を行う。
2. 日常生活を通しての減災に対する実践的な態度を育成する。
3. 災害後に必要とされる行動及び共同作業のスキルを習得させる。
4. これらを通して災害に対する「自助」「共助」「公助」について3年間を通して総合的な学習を行う。

主なプログラム

講義を通し、地震・津波についての知識・意識を見直す。また、大地震により本校舎でけが人が出たり、避難所的な役割を果たさなくてはならなくなったりした場合を想定した訓練を実施する。

1. 「出張！減災教室」の地震・津波についての基礎講座を受講し、「災害への備え」を今一度考え直す機会とする。
2. 消防署の協力を得て簡易担架作成訓練、消火器操作について受講する。
3. 地震体験車による地震体験
4. マイトイレ作成
5. アルファ米、豚汁の炊き出し体験および防災食についての説明

概要

9：00～12：00 各学年に分かれてプログラムを実施

参加者感想文

- ・防災に関して知識はたくさん培ってきたつもりだが、それをいざという時役立てないといけないので、災害が来た時には落ちついて行動したいと思った。
- ・災害の時、何より重要なことはお互い協力し、支え合うことだと炊き出しの際に気づいた。
- ・普段から災害に備え、被害を最小限にできるようにしたい。
- ・自分の地域の危険な場所や安全な場所を把握しておきたい。
- ・ハザードマップに書かれている津波の予想地点を越えることがあるかもしれないと講義を受けて知ることができた。ここなら大丈夫だと安心せずにより高く、安全な場所へ逃げようと思った。

- ・今日の活動を機会に、いざ災害が起こった時に備え、細かなことまで家族と再確認したいなと思った。
- ・防災バッグの中をもう一度見直そうと思った。
- ・家族で避難先の場所の確認や、家具が固定されているかどうか見直そうと思った。

成果と課題

【成果】 今回の活動を通して、近い将来起こるであろう災害に備え、自分たちが担う大きな役割について実感する良い機会となったと思う。講義の中で地震・津波について自分自身の知識をアップデートし、防災に対する意識を強めた。さらに、実際に簡易担架を作成し、消火器の使い方を学び、身近なものですぐに作れるマイトイレの作成方法についても知るという実践的な知識・技能を身につけることができた。炊き出し体験では非常食を実際に調理、試食し、家庭でも常備しておきたいという声も聞くことができた。また、生徒会の生徒たちに前もってマイトイレの作成に取り組んでもらったことにより、防災スクール当日は生徒会が中心となり運営を実施できたことも大きな成果となった。

【課題】 来年度は、今年度以上に生徒たちが中心となって活動しながら、実践力を養えるような取組を行いたい。



地震体験車



簡易担架作成訓練



消火器操作訓練



講演会



炊き出し体験



マイトイレ作成

海南高等学校美里分校

実施日時	令和7年11月5日（水） 10:00~12:40
参加者	生徒20名、教職員8名、 計28名
実施内容	避難訓練、講話、救命講習（胸骨圧迫、心肺蘇生法、AED取扱）等

ねらい

- 1 いつ発生するかわからない災害に対する防災意識を高める。
- 2 学校周辺地域における今後発生する可能性が高い自然災害について理解を深め、対処する力を身に付ける。
- 3 防災の観点から地域の特性を学習し、今後の地域防災活動に役立てる。

主なプログラム

● 11月5日（水）

- 1 避難訓練
- 2 胸骨圧迫
- 3 心肺蘇生法
- 4 AED取扱

概要

1 避難訓練

授業中の地震発生を想定した避難訓練を行った。グラウンドに避難するまでの避難経路の確認など、現場教職員の指示の重要性を再認識した。

2 胸骨圧迫法・心肺蘇生法、AED取扱

紀美野町消防本部職員による救急救命講習を行った。胸骨圧迫の実技講習、人形を用いた人工呼吸等心肺蘇生法、AEDの使用

方法を学んだ。緊急時に、慌てずに救命処置を行うことができるよう、具体的に学ぶことができた。

参加者感想文

- ・シェイクアウトのことは知っていましたが、初めて実践することができて良かったです。
- ・初めて心肺蘇生法やAEDの取扱方法を学び、手順の多さに驚きました。練習では上手くできたけど、実際の場面に遭遇したら正しくできるか不安ですが、今日学んだことを思いだして、救助活動をしたいと思います。
- ・胸骨圧迫について、思った以上に力があるなと思いました。
- ・講習を受けて、振り返りが大切だと思いました。自分が住んでいる地域にあるAEDの場所を把握していなかったので調べたいと思いました。

成果と課題

【成果】

- ・教職員の指示のもと、生徒が迅速に行動できた点について、昨年度同様、紀美野町消防本部職員から高い評価を得られた。

【課題】

- 地域住民と協働で取り組むために。周知、広報、声かけ等、工夫したい。
- 過疎化、高齢化が進む地域での連携の仕方や地域防災の在り方について、引き続き検討したい。
- 多くの生徒が専用バスで通学する状況にあるため、通学時における防災対策を含め、実践的な防災学習が重要となる。

写真



箕島高等学校

実施日時	① 令和7年4月～12月【総合的な探究の時間（3学年）での防災学習】 ② 令和7年4月23日（水）【避難経路確認】（全校生徒） ③ 令和7年7月7日（月）【AED講習】（1学年） ④ 令和7年11月5日（水）【避難訓練】（全学年） ⑤ 令和7年12月12日（金）【避難所生活体験会の運営】（3学年・地域住民・小学生） ⑥ 令和7年12月20日（土）【防災スクールの運営】（全校生徒・地域住民）
参加者	生徒302名、教職員47名、地域住民等220名 計569名
実施内容	応急処置、避難訓練、地震についての学習、「災害時のリアルを知る」ワークショップ、防災スクール企画ポスター発表、避難所生活体験会の企画・運営等の年間を通じた生徒主体の防災スクール

ねらい

- 1 近い将来起こると想定されている南海トラフ巨大地震などの自然災害に備え、防災・減災に関する知識や技能を身に付け、防災への意識を高める。
- 2 災害発生時には、自らの安全を確保しつつ、特に避難生活において、地域の一員として進んで社会貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

- 1 総合的な探究の時間において「防災」をテーマに学習
- 2 災害発生時の基本行動を理解し避難経路について確認する
- 3 緊急事態に備え、応急処置訓練とAEDの使用方法を身につける
- 4 県下一斉避難訓練で校内の避難経路の確認とともに防災意識を高める
- 5 「避難所体験会」の運営
- 6 「防災スクール」の企画・運営

概要

1 総合的な探究の時間において「防災」をテーマに学習

①「防災×〇〇」と題して、各機関のゲストの方々に来校いただき「災害時のリアルを知る」ためのワークショップを開催。（6月18日（水））

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ①防災×美容 株式会社ナリス化粧品 | ②防災×林業 ソマノベース |
| ③防災×社会教育 湯浅町地域おこし協力隊 | ④防災×食 大阪調理製菓専門学校 |
| ⑤防災×運動 自衛隊 | ⑥防災×インフラ 株式会社 保田組 |
| ⑦防災×保存食 有田食品株式会社 | ⑧防災×地域 有田市社会福祉協議会 |
| ⑨防災×グッズ 一般社団法人 防災用品研究所 | ⑩防災×医療 日本赤十字社 和歌山県支部 |
| ⑪防災×物流 株式会社KL | |

②ワークショップの内容を踏まえ、デジタルポスター「防災スクールでやってみたいこと」の作成と、それを用いたランダムグループ内での発表及びその代表者による全体発表。（1学期）



③各関係機関協力の下、8つのチームに分かれ「防災スクールで地域の方々に伝えたいこと」について企画。（2学期）

1. 医療（和歌山医療スポーツ専門学校）
2. 行政×防犯（有田市役所・有田湯浅警察署）
3. 避難行動（有田市社会福祉協議会）
4. 非常食アレンジ（大阪調理製菓専門学校）
5. 救助（自衛隊）
6. 非常食開発（有田食品株式会社）
7. 教育（日本赤十字社 和歌山県支部・保田小学校）
8. 全体企画

② 災害発生時の基本行動を理解し避難経路について確認する（4月23日（水））

1. 設定 紀伊水道を震源とする震度7の大地震が発生し、津波警報が発令
2. 経路 下図参照
3. 対象学年 全学年
4. 方法 クラスごとに避難経路を歩いて確認

各クラス経路の確認 → 担任先導 → 教室に戻り点呼、体調確認、振り返り



③ 緊急事態に備え、応急処置訓練とAEDの使用方法を身につける（7月7日（月））

1. 場所 有田消防署5階多目的ホール
2. 内容 応急処置とAEDの使用方法
3. 対象学年 1学年
4. 方法 消防署職員による伝授

④ 県下一斉避難訓練で校内の避難経路の確認とともに防災意識を高める（11月5日（水））

1. 場所 本校（箕島校舎）
2. 内容 シェイクアウト、校内の避難経路の確認
3. 対象学年 全学年
4. 方法 全クラス一斉に避難経路を歩いて玄関まで移動

【成果】

避難訓練、応急処置訓練ともに参加することで知識が増え、実際に行動（体験）することで身につけることができた。

【課題】

実際に行動が必要な場面に陥ったときに落ち着いて行動できるかが課題である。

⑤ 「避難所生活体験会」の運営

12月12日には、全体企画チームの生徒が主体となって、箕島高校が避難所になったらという想定で「避難所体験会」を実施。地域住民の方約50名（炊き出しは日本赤十字社のボランティア奉仕団のみなさん）、湯浅小学校の児童52名、箕島小学校の児童41名、和歌山医療スポーツ専門学校の学生10名が参加。3学年の生徒が主体となって小学生や地域の方々に体験してもらった。

- ① 日本赤十字社 和歌山県支部による「HUG」を体験（2回）
- ② 炊き出し（水・アルファ米・^{はちだんご}饅頭子汁） 【調理：日本赤十字社のボランティア奉仕団 協力】
- ③以下のA～Eの内容をグループごとに体験

- A きいちゃん災害避難ゲーム
- B 避難所での資機材について（簡易トイレ・LP ガス・段ボールベッド・バルーン投光器）
- C エコノミー症候群にならないための健康体操
- D 担架リレー・障害物競走
- E 防災〇×クイズ

※日本初の「災害用キッチンコンテナ」をお借りし、炊き出しで活用！

⑥ 「防災スクール」の企画・運営

1. 医療チーム

昨年に引き続き和歌山医療スポーツ専門学校の先生方にご協力いただき、災害時のエコノミー症候群を防ぐための運動について探究した。授業には毎回和歌山医療スポーツ専門学校の学生の方々にも来ていただき、災害医療について詳しく教えてもらった。

12月20日の防災スクールにおいて、「マッサージ」「健康体操」「応急処置」の3つの班に分かれて、地域の方々に向けてワークショップを開いた。



2. 行政×防犯チーム

有田市役所防災安全課の方々からいただいた、「避難所運営マニュアル」や「避難所資機材マニュアル」を高校生の視点で新たに作成。また、有田湯浅警察署の方による「避難生活における防犯」についての講話。

避難所資機材マニュアルは、段ボールのパーティションやファミリールームテント、簡易トイレ、発電機、投光器、段ボールベッドなど、使い方のマニュアルとつくと共に、動画を作成した。

12月20日の防災スクールでは、格技場に資機材を設置し、実際に地域の方々々に体験してもらった。



3. 避難行動チーム

多様な避難について考えるために、「きいちゃんの災害避難ゲーム」を実施し、カードの内容について不足がないか話し合った。カードの内容を見直す中で、実際に全盲の方、車椅子ユーザーの方、子連れの方、外国人などに学校に来ていただき、避難の際の不安点などについてインタビューを行い、多様な避難行動について理解を深めた。和歌山県の防災企画課の方にカードの内容の提案を行った。

12月20日の防災スクールでは、「きいちゃんの災害避難ゲーム」を体験してもらうため高校生がファシリテーターを務めた。



4. 非常食アレンジチーム

生徒たちからの強い要望で今年から新たに非常食アレンジチームが結成された。既存の非常食をアレンジし、非常食のパンを使ったフレンチトーストと、アルファ米を使ったチャーハン、おじやを考案した。メニュー開発に向けて何度も試食を繰り返し、一番おいしい配合を考えた。また12月11日には、新聞紙でお米が炊ける炊飯器を使用し、災害時の調理についてチームで探究した。12月20日の防災スクールでは、「非常食アレンジレストラン」を開き、地域の方々に召し上がっていただいた。



5. 救助チーム

自衛隊の方々から災害派遣の話聞き、自分たちが救助の面で役に立てることを話し合った。

12月10日には自衛隊の基地に行かせていただき、実際の救助について実技を学んだ。

12月20日の防災スクールでは、実際に被災したと想定し、体育館を被災地に見立て、簡易担架の作り方をレクチャーし、「救助レース」として障害物競走を実施することになった。さらに、災害時の救助方法についてのクイズも出題し、役割分担をしながらすすめた。



6. 非常食開発チーム

昨年に引き続き有田食品の方にご協力いただき、高校生が考える非常食を開発した。今年は、昨年の内容を更にブラッシュアップし、ターゲットを絞り非常食を考えた。また、栄養計算なども教えてもらい、栄養価の高い、美味しい非常食を3種類考えた。12月10日・11日には有田食品の工場で実際に調理のお手伝いをさせていただき、12月20日の防災スクールでは、開発した非常食の発表と試食を行った。



7. 教育チーム

日本赤十字社 和歌山県支部のボランティアの方々が開発された教材を元に、本校の生徒が小学生に伝えたいことを考えてオリジナル教材を開発した。また、機械科の生徒を中心に男子グループで有田市内のハザードマップをわかりやすく巨大化し、LEDを入れて工夫した。女子は防災についての〇×クイズを考え、ゲームの内容を考案し、手作りの教材を作成した。12月11日には保田小学校の4年生を対象に2クラス授業に行かせていただいた。12月20日の防災スクールでは、ミニ授業を来場者向けに行った。



8. 全体企画チーム

避難所生活体験会・防災スクールの企画と運営を行った。まず、避難所生活体験会でどんな内容を実施するか話し合い、日本赤十字社和歌山県支部の方に「HUG」ゲームを体験させてもらった。また、チラシの作成を行い、Instagramなどで告知を行うための動画作成を行った。避難所生活体験会当日は受付やゲームのファシリテーター、小学生の誘導など、臨機応変に対応した。

12月20日の防災スクールでは、受付や巡回などを行い、イベントの成功に大きく尽力した。



9. その他

地震体験車、和歌山県警音楽隊にも協力してもらい、それぞれに催し物を開催。また、スタンプラリーを実施し、景品に「圧縮タオル」や「長期保存水」など防災の啓発ができるものを用意した抽選会を行った。



◆参加者の感想

【避難所生活体験会の3学年の生徒の感想】

- 避難所体験会をやったおかげで今までより防災の大切さや災害の恐ろしさがよくわかりました。この体験学習があって見直す事が出来たのでとても良かったです。
- 自分自身をもっと防災に詳しくなるとけばよかったなと後悔している。
- 初めは小学生にどのように接すればよいかわからなくて心配だったが、意外と話せたりして楽しかった。小学生に楽しんでもらえたからやって良かった。
- もう少し、避難することについてわかりやすく、簡潔に伝えられるようにすればよかったと思う。
- 普段関わる機会があまりない小学生と一緒に防災について学べたのでいい経験になったのかなと思った。
- 自分で考えて動くことができたし、先生達の立場のことを生徒がほとんどやれたから。
- 炊き出しで早く学校に行って準備をして、炊き出しの大変さ大事さを学べて良かったです。小学生たちと周ったりしたかったけど、みんなと協力できて楽しかったです。
- 小学生の意見を汲みながら進めることができた。
- 普段は避難について深く考えることはなかったけど、探究の授業で以前よりも色々考えることができたのでとてもいい機会だったなと思います。
- 避難所で使う道具を組み立てながら小学生と楽しく交流ができてよかった。
- 普段は小学生と直接関わる機会が多くないので。接し方や、考え方、困っていたら自分から進んで手助けすることが大切だと感じることもできたため。
- 非常食を食べたり、避難所のシミュレーションを考えたり、実際にベッドなどを組み立てる経験ができるのはなかなかないと思うので、とてもいい機会になったと思う。
- 小学生のみんなとカードゲームをするのに、最初はどう接していいのかわからなくて、あまり話せなかったのですが、2回目のゲームでみんなと話して協力することができて良かったです。小学生のみんなが積極的にゲームに参加してくれたのが良かったです。
- みんなが協力して、トラブルがあっても臨機応変に対応できていた。
- 小学生や同級生、大人の方と協力してすることができたから。あまり関わることのない人との交流をすることができたからよい経験になったから。
- 子どもが苦手だったけど思っていたよりはちゃんと接しながら運営側を努められたと思う。

【防災スクールの生徒の感想】

- 来てくださった方に避難するとはどういうものか知ってもらえたから防災スクールができて良かった。
- 大人の人にもみんなで協力して丁寧に伝えることができたと思う。あと、ご飯がおいしかったです。
- 自分の苦手である発表をできたことが良かった。
- 防災のカルタで小さい子が楽しんでくれていたのでよかった。
- もっと色々な世代の人たちに避難のことについて知ってもらえるように呼び込みをすればよかった。
- 今まで自分達がしてきたことを伝える時に来てくれた人が「すごいね」と褒めてくれてやりがいを感じました。
- 色々な班の努力がすごいと思ったから。
- みんな楽しく防災について学んだり、一人ひとりの防災意識がかなり向上したと思ったのでとても良かったなと思います。
- 普段見ることの出来ない広川町の可愛いチアや警察官の演奏が聴けてよかった。行政班での、1、2年生への対応が難しかったけど、臨機応変に対応することが出来た。
- きいちゃんのボードゲームをしてもらうときに、2回シフトがはいっていて、1回目はルールを理解していても、上手く言葉にすることができず、パニックになってしまったときもあったが、2回目は1回目の経験を生かすことができ、来てくれた人の目をしっかり見たり少し大きな声を出すように意識するようになり、2回目のほうが上手く説明出来たと思う。
- 地域の人に関心を持っていただけで良かった。
- 発表で、その時の自分の言葉で伝えることができてよかったです。避難所生活体験会の時の改善点を防災スクールの発表で活かすことができてよかったと思います。
- 防災スクールではお世話になった専門学校の方たちが来てくれて、発表を褒めてくれた。しかし他の場面であまり人が集まらなかったのもうすこし呼び掛けをしたら良かったかも。
- 周りとの発表の練習やその成果が十分に発揮できたと思ったから。
- 自分の班は防災おもちゃやかるたで遊ぶなどして防災を遊びで学ぶというのをしたのですが、きてくれたみんな楽しそうに、ここはこう危ないなど一緒に考えてくれてみんなで学べてとても勉強になりました。箕島高校ならではの防災スクールでキッチンカーなどとても美味しかったし、防災も学べていい機会だなと思いました。
- 防災について楽しく地域の人達と学べて、いざ災害が怒っても大丈夫な気持ちになれた！
- メンバーと協力してこれまで学んできたことをもとにレストランを開いてみんなに満足してもらえる結果となったから良かった。
- 地域の人に来てくれて、自分達が普段慣れていない運営側として地域の人をサポートすることができたから。

- 地震の体験や災害グッズなどを組み立てるコーナーなどがあったのがとても良かったと思いました。また、各チームでゲームや授業など色々なことをしていたことが、実際に災害が起きた時にスムーズに対応できるようになるきっかけになったとも思ったからです。
- 医療チームで活動して、人に教えるということの難しさやそれにたいして自分の理解を深めることができる良い経験ができたと感じました。
- 生徒も一般の人でも防災について楽しく学べたので良かったと思います。やるなら楽しくやった方が思い出しにも残るので防災スクール楽しかったです。
- 自分たちが考えて取り組んだ事を多くの生徒に体験していただき楽しいと思ってくれたこと、凄いと感じてくれたのがやってみて良かったと感じました。
- 一般の人と一緒に考えて防災に取り組むのが良かったです。
- 防災についてゲームを通じて学んだり、実際の機械に触れたりすることで、もし本当に災害が起こった時に冷静に対処できると思ったから。
- 3年生の救助体験が楽しくて、知らなかった事を知れた。
- 世間の役に立つことをしたり災害が来てからやるのではなく来る前に事前準備としてこのようなことができたから。
- 普段話さない人とも一緒に行動して話し合う事でコミュニケーションをしっかりとる力を身につけることができた。

有田中央高等学校

実施日時	令和8年1月23日（金）
参加者	生徒58名、教職員13名 計71名
実施内容	災害に備える講座、非常食体験、AEDの使い方講座、パラコード編み等

ねらい

- 1 近い将来発生するであろう災害等に備えて、防災への意識付けを行う。
- 2 災害発生時には、自らの安全を確保し、進んで地域の一員として役立つことができる。

主なプログラム

- 1 災害に備える講座／非常食体験
- 2 AEDの使い方講座
- 3 パラコード編み

概要

- 1 災害に備える講座／非常食体験

スライドとワークシートを用いて、災害や防災についてのクイズや、実際に災害が起こったことをイメージして、避難プランを考えたり、非常用持ち出し袋に入れるものを考えたりした。

<p>③2024年1月1日に起きた令和6年能登半島地震の発生時刻は何時頃でしたか？</p>	<p>①午前8時頃 ②午後2時頃 ③午後4時頃 ④午後7時頃</p>	<p>⑥大人一人が1日に必要とする水は何リットルでしょう？</p>	<p>①1リットル ②2リットル ③3リットル</p>	<p>8月の暑い昼13時、地震発生!!あなたの家の電気、ガス、水道、すべてのライフラインがとまってしまいました。近くのコンビニやお店も被害が出て、営業していません。あなたの家の中は、物が散乱していますが、倒壊はしていません。この後から3日間どう過ごす?避難プランを立てましょう。(どこで寝る?何食べる?お風呂は?着替えは?)</p> 
---	--	-----------------------------------	-------------------------------------	--

水からもどしたアルファ米とお湯からもどしたアルファ米を食べ比べた。



2 AED の使い方講座

吉備金屋消防署の方から、AED の使い方を教えていただき、実際に人形と AED デモ器を使って、心肺蘇生を体験した。



3 パラコード編み

災害時には、ほどいて様々な用途で使用出来るパラコード編みでブレスレットを作って、災害に備える意識付けを行なった。



参加者感想文

- ・災害に備える講座では、時間も日時も違う日に、大きな地震が起きているので、準備をしないといけないなと思いました。
- ・アルファ米わかめご飯は、水でもどした方は、少し食べるのが早かったのもあり、硬かった。お湯でもどした方は、おいしかった。
- ・防災スクールを受けて、AED とか心肺蘇生法とか、できると思っていたても、実際やってみたら難しいし、結構しんどかった。
- ・パラコード編みは、最初は難しかったけど、規則が分かれば、とても楽しいなと感じました。

成果と課題

【成果】

多くの生徒が、前向きに、真剣に取り組み、防災への意識が高まったように思う。

また、今年度は、AED の使い方については、消防署の方から、教えていただくことができた。生徒達も真剣に取り組んでおり、良い機会となった。次年度以降も継続していければと思う。

パラコード編みは、楽しかったと感想に書いている生徒が多かった。パラコード編みを鞆につけて登校する生徒もおり、使える日が来ないことを願うが、実際に起こった時に何かの役に立てば良いと思う。

【課題】

毎年、防災スクールは、生徒層をみながら、企画している。今年度は、消防署の方が、夏に教員向けのAEDの研修を行った際に、生徒達にも実施できればと提案していただき、外部機関との企画が実現した。以前は、外部機関との連携がもっとあったように思うので、来年度も、外部機関と連携した企画を考えていきたい。

有田中央高等学校清水分校

実施日時	① 令和7年 8月25日(月) 2限～4限 ② 令和7年11月5日(水) 2限
参加者	① 生徒4名、教職員8名、保護者3名 計15名 ② 生徒4名、教職員8名 計12名
実施内容	① 防災スクール「災害に対する備えと避難所体験」 ③ 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

ねらい

- ① 災害に対する備えについて理解を深める。全生徒、保護者、全教職員の共通理解と協力のもと防災グッズを再確認する。また、避難所運営体制の習熟に努め、防災意識の向上を図る。
- ② 地震発生時にそれぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとるなど、適切な対応行動を身につけるとともに、日頃から地震に対する防災意識を高める。また、土砂災害について、清水周辺は山地であり、身近に起こりえる災害であるため、土砂災害について正しい知識、備えを身につける。

主なプログラム

- ① 「出張！減災教室」（和歌山県危機管理消防課）を実施

講義：〇×クイズと防災グッズ講座

グループワーク：みんなで協力して避難所運営しよう！



- ② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

シェイクアウト訓練、避難誘導、救護体制の訓練、「世界津波の日」「稲むらの火」に関する講話、わかやま土砂災害マップの確認、避難所マップの確認、避難カード記入



概要

① 和歌山県危機管理消防課による「出張！減災教室」を実施

- ・「〇×クイズと防災グッズ講座」では、防災に関する知識をクイズ形式で学んだ。身近な防災グッズの活用法を実際のグッズを手に取りながら確認することができた。
- ・「みんなで協力して避難所運営しよう！」のグループワークでは、2班に分かれて、避難所での役割分担やトラブル対応を話し合いました。「災害に対する備え」では、日頃から防災意識を持つことの重要性を学び、平素に近い生活ができるように備えておくことで、ストレスの軽減につながることを学んだ。

② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

地震発生時の身を守る行動、避難経路の確認を行い、緊急地震速報の模擬放送により実際に運動場に避難。その後、講話により「世界津波の日」「稲むらの火」の由来についての学習をした。また、わかやま土砂災害マップで清水分校周辺の状況を確認、清水分校体育館が避難所となっていることを確認し、どのような行動を取るべきかを学習した。

参加者感想文

- ・災害における備えは本当に大切だと改めて感じる事ができた。
- ・避難所生活を想定して学びを生かしたいと考え、防災意識をもって生活したいと思った。
- ・避難所の配置や役割分担は難しかったが、有意義な体験になった。
- ・南海トラフ地震では状況によって対応が異なり、備えと心構えが必要だと感じた。

成果と課題

【成果】 防災スクールでは、防災に関する知識をクイズ形式で学び、身近な防災グッズの活用法を実際に手に取ることで、防災意識を高めることができた。続いて、避難所での役割分担やトラブル対応をシミュレーションしながら話し合った。学校がある清水地区は、山間部に位置し、土砂災害は、身近に起こりえる災害であり、清水分校体育館が避難所になっていることから、生徒たちは、自分のこととして考えることができた。防災スクールに、全保護者の参加もあり、知識を得るだけでなく、自らの備えを見直し、家族や地域と連携する意識を高める貴重な体験となった。

【課題】 山間部のため津波は想定外であるが、土砂崩れや路面崩壊、倒木による交通の遮断や、電柱や電線の損壊による停電の被害は十分予想される。過去には、大きな台風の影響で、有田川町の山間部で停電が長期間続き、分校の生徒の中には10日以上停電状態だった者もいた。学校のある地域は比較的早く復旧したが、電話・インターネットはもちろん携帯電話も不通になり、生徒や有田中央本校との連絡もできなかった。災害後の状況に対応できる体制づくりが必要である。現在、災害時の対応について近隣の中学校小学校との連携も進めている。過去に大雪のため清水地域の道路が全面通行止めとなった。この通行止めは、1日で復旧したが、冬季の雪に対する備えも必要である。

耐久高等学校

実施日時	令和8年 3月 13日 (金)
参加者	生徒193名、教職員10名 計203名
実施内容	湯浅広川消防組合の指導による各種防災実技訓練

ねらい

1. 高校生の防災意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を目指す。
2. 関係機関と連携し、防災・減災に関するより専門的な知識を習得する。

主なプログラム

- 開講式
- 実技訓練
 1. ロープワーク
 2. 起震車による体験
 3. 煙体験
 4. AED 心肺蘇生法
 5. タンカでの搬送
- 閉講式
- HR 教室にて感想文

概要

体操服に更衣の上、ハンドボールコートに集合して開講式を行う。学校長挨拶・湯浅広川消防組合の講話のあと、上記 5 つのプログラムを湯浅広川消防組合指導の下、クラス単位で各種目 30 分間のローテーションで実施する。実技訓練終了後、閉講式にて湯浅広川消防組合の講評を受け、HR 教室にて感想文を書く。



起震車による体験



ロープワーク



煙体験



毛布タンカでの搬送



AED 心肺蘇生法

参加者感想文

防災に対する取り組み方を一から丁寧に教えてもらうことができ、これからの自分につなげることでできる経験を実際に行うこともできて本当に良かったです。地震の揺れを体験できる車に乗ってみてより恐怖を感じました。私は実際、こんな状況ですぐ行動に移せるのだろうかと不安になったけど、しっかり訓練したことを生かして、自分の身を守るだけでなく、周りの困っている人たちもサポートできるようにしたいと思いました。煙体験では、周りが見えなくて、とても怖かったです。周りが少しでも見えにくくなると、焦りとか恐怖で余計にパニックになってしまうんだと改めて感じました。そういう時には、焦らず、心を落ち着かせて深呼吸が大事だと学ぶことができました。消防団の人たちも親切に教えてくれたので、分かりやすく落ちてついて授業に取り組むことができました。

防災スクールを体験して、非常時の冷静さがとても大切だということがわかりました。特に火事を想定した煙の中を進む体験では思ったより、机や椅子がまったく見えず、避難する経路を探すのにとても時間がかかりました。でも、本当の火事の場合は、火が迫ってくる恐怖感や出口が見つからない不安などもっと時間がかかると思ったし、そんなときこそ落ち着いてよく考えるということがとても大切だと実感できました。他にもAEDの使い方なども、自分だけでなく、周りの人を助けるのにも重要なことだと改めて理解することができました。人を運ぶにも物を使って安全に運搬する方法や人の力でできるだけ楽に持ち上げる方法など、あまり知らなかったのもとても勉強になりました。最後縄の結び方は少し難しかったけど、力を入れても全然とれなくてとても驚きました。今日知ったことを災害や火事にでくわしてしまった時に活用できるようにしたいです。

私は、防災スクールを体験して印象に残っていることが二つあります。一つ目は、地震の体験をすることができるものです。震度4から6ぐらいの揺れを体験しましたが、手すりをしっかりとしたないと揺れが大きくて怖いと思いました。動画では、家具が大きく揺れ、たくさんものが倒れていました。私は、この体験で東日本大震災、阪神・淡路大震災の恐ろしさを肌で実感しました。南海トラフが起こるかもしれないと言われているので、家具を支える支柱をとりつけるなどして対策していきたいです。二つ目は、煙体験をするものです。煙の中では、近くの机やいすを見ることができず、息苦しくて、火災が起きたときはこのようになるのかと思いながら体験していました。災害から備えるために、家具に危ないものがないかを確認したり、いざとなったときにすぐに行動ができるように今日のこの防災スクールで学んだことを気に止めておこうと思います。

防災スクールを体験して、担架の体験では、毛布と棒だけだから大丈夫かなと思っていたけど、思っていたよりも丈夫でびっくりしました。ロープ体験では難しかったけど色々な結び方があることや9人ぐらいが命綱としてつけてもちぎれないと知ることができました。地震体験をするところでは 思ったより揺れが長いことに驚いたし、震度3とかに下がってもまた震度5とかになったから、一度揺れがおさまっても油断したらだめだと分かりました。また、本棚とかも倒れてくるから、机に隠れる前にドアを開けて逃げる道をつくるのが大切だと思いました。AEDでは周りの状況を見て、AEDを使う勇気を持つことが大切だと感じました。煙体験では前が見えないからどうなっているのか分からないし、自分がどこにいるのか把握するのが難しいぐらい焦りました。また、実際は炎とかもあって息がほぼできないと思ったらとても怖くなりました 地震だけではなく、火災に対する意識も高めていく必要があると思いました。

成果と課題

目指す生徒像として、

- ①災害に対する危機意識を持ち、防災・減災に主体的に取り組む。
- ②災害発生時に自分の命を守るとともに、直後の救助活動に取り組む。
- ③災害後の活動に積極的に取り組む。

以上の3つを柱にして取り組んでいる。年間行事として、計画的に避難訓練、授業等の防災教育が行なわれているので、生徒たちの防災・減災に対する意識は高まっている。さらに、生徒たちが防災・減災を意識し、自分の命を守り高校生として何が出来るかを考えられるようになるためには、訓練の方法などを再検討し、地域の関係機関に協力を仰ぐことが必要である。

耐久高等学校（定時制）

実施日時	令和7年11月17日（月）
参加者	生徒20名、教職員7名、県教育委員会指導主事1名 計28名
実施内容	シェイクアウト訓練、起震車体験、避難訓練、応急手当普及講習救命入門コース 受講

ねらい

近い将来、起こると言われている南海トラフ地震やその他の地震災害から命を守るためにどのように行動すればよいかシェイクアウト訓練、起震車体験、避難訓練や応急手当講習を通じて学ぶ。

主なプログラム

- 1 シェイクアウト訓練
- 2 起震車体験
- 3 避難訓練
- 4 応急手当普及講習救命入門コース受講

概要

- 1 気象庁の緊急地震速報訓練動画の音声を合図に、学年別に各教室でシェイクアウト訓練を実施した。

シェイクアウト訓練の様子



- 2 「出張！減災教室」の起震車「ごりよう君」による震度7までの疑似地震体験を学年別に実施した。当日、雨天で起震車を使用できない場合を考えて防災啓発用DVDを用意しておいた。

起震車体験の様子



- 3 本校の避難経路を実際に歩いて確認しながら「湯浅広川消防組合 消防本部 地域防災センター」まで避難した。また、途中で体調が悪くなった生徒のために救護車も配備した。

- 4 地域防災センターにおいて応急手当普及講習救命入門コースを消防士の方々の指導の下、DVDでの説明を聞いて学習したのち、グループに分かれて救急時でのAEDの使用方法を訓練した。

DVD で説明を見る



AED の訓練の様子



参加者の感想

・ 「いつどこで起こるかわからないことだからこそ、今回の避難訓練は自分にとって本当に良い体験になったと思います。AEDは使い方もこれまで良くわかっていなかったなので、今回学べたことはとても良い経験となりました。」

・ 「人が倒れた時の対応方法や心臓マッサージ、AEDの使い方をしっかりと学ぶことができました。思ったより体力を使って大変でしたが、いざという時に慌てずに行動できるようにしたいです。」

・ 「避難訓練は、普段あまり意識しない防災について考える良い機会となりました。起震車では、実際に地震が起きた時のことを考え、怖いと思いつつも、いざという時のための行動を考えながら体験することができたと思います。救急救命講習では、昨年教わった事もありましたが、やはり忘れていたことも多かったので、いざという時に対応できるように身に付けていきたいです。」

成果と課題

【成果】 生徒たちは地震発生の合図を聞くと、すぐに揺れが収まるまで机の下に潜ることができた。行動も素早く、速やかに玄関前へ全員が集合した。また、起震車では生徒たちは震度7の大地震に近い揺れを疑似体験し、強烈な揺れや恐怖を体験した。この経験を通じて、実際に地震が発生した際に冷静に対処するための心構えを持つことができた。

さらに、学校から地域防災センターまでの避難経路を歩くことで、所要時間や危険な箇所を確認することができた。

【課題】 本校は夜間定時制であるため、校外の避難場所への移動は危険が伴い、十分な注意が必要である。特に一般車両との通行には十分に気を付ける必要がある。加えて、今後は保護者の方にも避難訓練に参加していただくことを検討していきたいと考えている。訓練を一度きりのものとせず、日頃から防災意識を持ち、定期的にこうした活動を続けていくことが、防災・減災の観点から非常に重要である。

日高高等学校・附属中学校

実施日時	① 令和7年 4月28日(月) ② 令和7年10月21日(火) ③ 令和7年11月 5日(水)
参加者	① 800名(中高生徒750名 中・高職員50名) ② 800名(中高生徒750名 中・高職員50名) ③ 800名(中高生徒750名 中・高職員50名)
実施内容	① 避難訓練 ② 防災スクール ③ シェイクアウト訓練

① 避難訓練

ねらい

大地震や津波の発生時、迅速かつ安全に対応できる行動力の育成を図るとともに、校内外の避難経路を確認する。

主なプログラム

- 1 グラウンドから校外への避難
- 2 HR 教室で感想文記述
- 3 避難完了時刻報告

概要

- 1 点呼確認後、教員引率のもと、校外で津波が発生した場合の避難場所へ避難する。(避難時間計測)
- 2 HR 教室で成果と課題について記述する。
- 3 学年別の避難完了時間を報告する。

参加者感想文

- ・片道30分かかったけど、実際災害が起こったときに間に合うのかと思った。運動靴に履き替えたから何とか歩けたけど、ローファーだと大丈夫なのかと思った。
- ・細い道や橋などがあり、実際地震が起きた

ら周辺の橋や壁が崩れて通れなくなると思った。その為、日頃から周辺道路を熟知しておく必要があると思った。

- ・実際、災害があれば避難所まで、走ったり、飛び越えたりしていかなければならないため、普段からそのための体力をつけおく必要があると感じた。

成果と課題

【成果】

- ・昨年に引き続き今年度も、生徒が校外に所在している時を想定して校外避難訓練を行った。生徒は、避難する方面は元々知っていたが、避難場所までの細かなルートを知ることによって、危険箇所や迂回ルートを考える良い機会となった。

【課題】

- ・宮山公園と白馬寮の2ルートで実施したが、宮山公園は山崩れの危険性が震災時にあることが分かった。白馬寮は距離的に、遠く実際には御坊駅周辺まで津波は来ないので、避難訓練のルート変更や形を検討する必要があると市役所の方とも協議をした。

② 防災スクール

ねらい

大災害はどの地域にも起こると想定し、いかなる状況であっても、正しい判断と的確な行動によって、自らの命を守ること、人を助けることが期待される、そのための実践力を高める。

主なプログラム

- 1 自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール（高校1年生・附属中学生）
- 2 御坊市消防本部による防災スクール（高校2年生）
- 3 きいちゃんの災害避難ゲーム
～避難所運営ゲーム～（高校3年生）

概要

- 1 『救難信号』・『ロープワーク』・『簡易担架・止血法』・『背囊講演』の4展開で実施。救難信号では、実際にモールス信号を使った発信のやり方を学んだ。身近にあるものを利用した簡易担架作成や止血法の実施、ロープワークなど、漠然と手法を学ぶのではなく、回数や時間など、理論的に効果を理解して活動する時間となった。また自衛隊員が背負う背囊の中身をせて頂き、実演を加えた講義をしていただいた。
- 2 『消火訓練』・『煙体験・バケツリレー』・『災害DVD視聴』の3展開で実施。消火訓練は消火器の扱い方や消火をする疑似体験を行う。煙体験は口や鼻をハン

カチや布・服などで覆う。バケツリレーでは、本来の水ではなく、野球ボールを代用し、供給係や補給係など役割を分担しタイムを各クラスで競った。DVDの視聴では、和歌山県で津波が発生した際のスピード感などを学べる内容であった。

- 3 『きいちゃんの災害避難ゲーム』では、地震発生時の避難所運営を体験し、叱咤の場合にも判断できる状況判断力を養う。

参加者感想文

- ・簡易担架は自分たちが着ている服でもつくれることを知った。
- ・救難信号で愛の告白のやり方を教えてもらい、興味深く学ぶことができた。
- ・消化器を使うにあたって、風下にいるときや横風が強い日は、使い方を注意しなければならない。
- ・煙体験では、消防の方が周囲に居てくれたこともあり、スムーズに進めたが、実際の煙は真っ黒で、前がほとんど見えずに、息もしづらいため、パニックに陥るかもしれない。
- ・バケツリレーでは、クラス全員が息を合わせて回していかないと、タイムが縮まらなかった。実際の現場でも焦らずに協力したい。
- ・実際の避難所運営では、事前にどんな人がいるのかを知っておくことで、各部屋をどう使用すべきかが変わってくると感じた。

成果と課題

【成果】

命を守るための知識理解と、意識改革を趣旨とし、最も重要なのは、災害が起こって当然という心構えと、そのための準備が必要であることを学んだ。

（1年生）

災害が起こって、傷病者に対して命をつなぐための直接的なアプローチ（止血法・簡易担架・ロープワーク）を学んだ。

（2年生）

火災が起こった時の避難方法（煙体験）、消化訓練について具体的に学んだ。また、バケツリレーでは、実際に重みのあるバケツを中継することで、避難場所等での協力の必要性を学ぶことができた。

（3年生）

災害時の迅速な避難行動や、日頃からの備えの重要性、円滑な避難所運営のために必要となる協力体制を学んだ。

【課題】

今年度は、昨年の課題から附属中学の生徒が初めて自衛隊の訓練に参加した。人数が多く円滑な活動が難しい状況であったが、自衛隊の方の協力もあり、スムーズに進行することが出来た。

③ シェイクアウト訓練

ねらい

緊急地震速報が発表された時、それぞれの場面に応じた適切な行動を身につける。

主なプログラム

授業実施場所（教室・グラウンド・体育館等）でのシェイクアウト訓練

概要

午前10時に、放送室から緊急地震速報を流す。職員・生徒とも（頭部を低く保護して動かない）をテーマにして、机の下など安全な場所に避難する

日高高等学校（定時制）

実施日時	令和7年7月16日（水）、9月2日（火）、11月5日（水）
参加者	生徒23名、教職員8名、計31名
実施内容	被災者救助(救急救命)訓練、火災避難訓練、地震体験車「ごりよう君」、津波を想定した避難訓練と避難経路確認、ライフジャケット脱着訓練

ねらい

- 1、災害についての知識を身につける
- 2、災害から自らの命を守るとともに、被災者を救助する行動力を養成する
- 3、災害から生き抜く力を身につける

主なプログラム

- 1、火災、津波に対して各状況を設定し、避難訓練・避難場所の確認を行う。また被災者の救助のための救急救命訓練を行う。
- 2、起震車による地震体験訓練
地震体験車「ごりよう君」に乗って、3方向の揺れと震度7までを段階的に体験する。
- 3、ライフジャケット着脱訓練

概要

- 1、緊急時に人命救助にあたるための心構え、南海・東南海地震への備えと、ライフジャケットの正しい着用方法の体験から被災時にとるべき行動を確認した。
- 2、在校時に災害が起こった時の避難場所までの経路を確認するとともに、在宅時の避難場所や家族との連絡方法を確認した。

参加者感想文

- ・定時制は、夜なので停電したら何も見えなくなり、危険が多いことがわかった。焦らず、しっかり状況を判断して避難しようと思った。
- ・地震が来たとき訓練と同じように行動できるようにしたいです。
- ・ライフジャケットを暗闇で着てみるとスムーズに着ることができなかった。

成果と課題

【成果】

- ・毎年、心肺蘇生法や起震車による地震体験を行っており、年々、生徒達の災害に対する意識は高くなってきている。より具体的な状況を想定し、そのとき取るべき行動を考える機会として、今年度は特別教室棟の4

階への避難訓練を行った。

- ・巨大地震に伴う津波発生時に、停電が予想されるため、懐中電灯の明かりの中でライフジャケットの着用体験を行った。ライフジャケットの大切さを理解すると共に、実際に着用してみることで緊急時の安全対策を実感できたようである。
- ・生徒は、災害発生時に自分の身を守ること、被災者を助けること、ボランティアとして人々をサポートすること等について、一つ一つ自分たちのとるべき行動や、担うべき役割を確認できたようである。また、家族との連絡方法や落ち合う場所を決めておくことの大切さも認識したようである。

【課題】

- ・夜間定時制であるため、暗闇の中での避難や安否確認など、想定される状況についてもっと意識させるような取組を行っていくことが大切である。特に、夜間下校時の被災時の避難行動について、個々の確認作業が必要と考えられる。
- ・生徒は、訓練でも真面目に取り組んでいるいかに自分のこととしてとらえ、より高い意識で訓練に臨ませるか今後の課題である。



日高高等学校中津分校

実施日時	令和7年11月5日（水）
参加者	生徒38名、教職員8名 計46名
実施内容	避難訓練、自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール

ねらい

自然災害に備えるだけでなく、日常生活における緊急対応を含め、防災意識を高め、地域防災の担い手として行動し、社会貢献できる高校生の育成を目指す。

主なプログラム

- 1 避難訓練
- 2 講評・講話
- 3 防災講話
- 4 止血法講習
- 5 担架づくり、搬送実習
- 6 ロープワーク実習、競争大会
- 7 災害時に使用する車両見学
- 8 感想及び振り返り

概要

職員による避難訓練、分校体育館で全校生徒および教職員を対象に自衛隊員から講習を受ける。

参加者感想文

- ・止血方法、担架の作り方を身の回りにある物でできたので覚えておき必要な時に活用したい。
- ・人を助ける方法を教えてもらい、技術が身についた。緊急時に発揮できるように復習したい。
- ・昨年度も防災スクールを行ったが、習った事は忘れるのでこのように定期的に実習して欲しい。
- ・人を助けることは怖くて勇気がいるが、助けることを学べて良かった。
- ・今年度は、ロープワーク実習を行った。教えてもらったらできるが、忘れてしまいそうなので機会があれば実践したい。
- ・丁寧に親切に教えてくれたり話してくれてとても分かりやすく大変ためになった。勇気も持って行動したいと思う。

成果と課題

【成果】

3年前より自衛隊協力のもと計画的に防災意識を高め、防災に対する知識・技術を習得することができた。本校の生徒の実情にあった体験型防災教育を行うことで成果があった。災害時には、まず自分の身の安全を確保した上で、地域と連携し活動ができるようになったと思われる。今年度はロープワーク実習を行ったが、毎年趣向を凝らして多くのことを経験する機会となった。

【課題】

生徒の感想を見ても、多くの生徒が今回の防災スクールの意義を理解し、研修を受けることができ、好評であった。

毎回、実習内容の見直しを行い実施しているので、3年間で多くの実習ができる様に工夫しているが、本校は寮生も多く、いざという時に的確な行動ができるかどうか日頃の声掛け、指導が大切である。今回も、学校の近隣住民に訓練参加を呼びかけたが参加はなかったため、来年は積極的に周知したい。



紀央館高等学校

実施日時	① 令和7年 4月23日(水) ② 令和7年 5月28日(水) ③ 令和7年11月 5日(水)
参加者	① 生徒137名、教職員16名、地域住民等 0名 計153名 ② 生徒 18名、教職員 2名、地域住民等22名 計 42名 ③ 生徒377名、教職員38名、地域住民等 0名 計415名
実施内容	① 1年次生 地震・津波 避難訓練 ② 湯川幼稚園 2年6組 地震・津波 避難訓練 ③ 2. 3年次生 シェイクアウト訓練 「津波防災の日」等についての学習 避難場所の確認(避難カードの確認を含む) 1年次生 簡易担架、止血法、ロープワーク、心肺蘇生法

ねらい

- 1、地震による津波や火災に対する知識を確認し適切な行動がとれるようにする。
- 2、地震による津波や火災に対して適切な避難行動がとれるようにする。
- 3、災害発生時における不測事態の対応要領について体験型学習を通じて見識及び知識を醸成する。

② 地震・津波避難訓練

- ・参加者 2年生 18名 教職員 2名 地域住民等22名
- ・開催日 令和7年5月28日(水)
- ・取組 大地震が発生し、その後、津波が発生したと想定し、湯川幼稚園の園児が本校へ避難訓練を行う。本校2年6組の生徒が避難の援助を行う。

主なプログラム

① 地震・津波避難訓練

- ・参加者 1年生137名 教職員16名
- ・開催日 令和7年4月23日(水)
- ・取組 大地震が発生し、その後、津波が発生したと想定し、避難行動の訓練を行う。

③ 「津波防災の日」等についての学習

- ・参加者 全学年377人 教職員38名
- ・開催日 令和7年11月5日(水)
- ・取組 シェイクアウト訓練
「津波防災の日」等についての学習
避難場所の確認
簡易担架、止血法、ロープワーク
心肺蘇生法

概要

① 地震・津波避難訓練

大地震が発生し、大津波警報の発表を受け、本校北の高台（御坊市湯川町富安方面）に避難する場面を想定して訓練を行った。クラス単位で担任、副担任の指導のもと、実際に歩いて想定された避難経路を確認した。避難場所や避難経路を確認し、円滑に避難できるようにした。また、八幡山や亀山等、標高40m 辺りを中心に、学校周辺の地形を確認した。

② 地震・津波避難訓練

大地震が発生し、大津波警報の発表を受け、湯川幼稚園の園児および教員が避難場所に指定されている本校へ避難する場面を想定して訓練を行った。避難してくる園児を、本校生徒が誘導・援助し4階の教室へ避難する訓練を行った。避難場所となっている4階の教室で、避難してきた園児と幼稚園の教員、本校生徒と本校の教員が訓練をふり返り、避難場所や避難経路を確認し、円滑に避難できるようにした。また、学校周辺の地形を確認し、実際の震災に備える訓練を行った。

③ 「津波防災の日」等についての学習

2、3年次生は大地震が発生したと想定して、身の安全を守るため、シェイクアウト訓練を行った。また、揺れが収まってから速やかに避難できるように窓や戸を開けておくことを心掛けた。その後、放送により津波の恐れがある地震、津波の恐れのない地震、火災が発生した場合について、避難場所や避難経路を確認した。放送終了後、各クラス単位で担

任、副担任の指導のもと、NHK で放送された紀の国スペシャル『南海トラフ巨大地震～見えてきた新たな脅威 その時、和歌山は』を視聴して津波・地震に関する学習を行った。最後に、家庭でも避難場所の確認をしておくよう指導した。

1年次生は自衛隊御坊地域事務所の協力を得て、防災教育（簡易担架、止血法、ロープワーク、心肺蘇生法）を実施した。

参加者感想文

- 避難場所や荷物の準備を家族としっかり話し合う必要があると思いました。想定にとらわれずに自分のペースですばやく逃げる。そして、第一は、自分を優先するが、他の人にも目を向けることも大切。
- 想定している数値よりももっとひどいことが起きるだろうなと思っておく。津波は海のある方向から確実に来るわけではなく、建物の間を通っていろんな方向から来るということを覚えておく。大きな地震が2回にもわたってくるということを知ってびっくりした。命を守ることを考えながら行動する。
- 橋杭岩の一部（役85t）が動くほどの津波が過去に起こった。これから起こるかもしれない、ということはずごく怖いなと思いました。今後起こるとされている巨大な津波に備えて災害に対する知識を深めたり、訓練をしたり、家族と話し合ったりしたいです。素早く行動できるようにしたいです。

成果と課題

① 地震・津波避難訓練

新入生に学校周辺の地理状況を認識させ、避難場所の確認をすることができた。訓練は学校周辺の歩道がある安全な経路を歩き、交通量が多くなる地点からは確認だけを行った。

入学してすぐに避難経路を確認すること、実際に歩くことで経路や時間を体感することが大切であると考え、次年度以降も継続していきたい。

② 地震・津波避難訓練

本校は安全性の高い避難場所として指定されており、災害時には近隣の住民が避難してくることが想定される。園児の避難を誘導・援助することで、生徒達が災害時の役割を認識するよい機会となった。次年度以降も継続して実施するとともに、地域住民と連携した避難訓練を工夫し実施していきたい。

③ 「津波防災の日」等についての学習

地震発生時、シェイクアウト行動や、避難のため戸を開ける等、迅速な対応ができた。防災学習がすすみ、生徒たちの知識や理解度も十分高まっているが、災害への再認識をする機会をつくることは必要不可欠であり、大変有意義であると考え。

今年度も自衛隊の協力を得て防災教育を実施した。専門家の指導の下、実際に体験することで、災害時や緊急時の対応について実践力が高まるとともに、非常時に対する意識が高まった。次年度以降も引き続き実施していきたい。

南部高等学校

実施日時	令和7年11月7日(金)
参加者	生徒216名、教職員49名、自衛隊員4名 計269名
実施内容	ロープワーク、応急担架作成、防災バッグ、止血法等

ねらい

自然災害に備えて防災意識を高め、地域防災の担い手として社会に貢献できる人材を育成する

主なプログラム

- 1 講話
- 2 グループごとの実習

概要

- 1 全体に対して災害が発生した時の行動についての講話
- 2 グループごとに「ロープワーク」「応急担架作成」「防災バッグ」「止血法」の実習を行う。

参加者の感想

- ・ロープワーク、担架、止血は思っていたより簡単で覚えやすかった。
- ・止血が一番印象に残っています。圧迫されている感じがして、こうやって血が止まるのだと身をもって体験できた。

成果と課題

【成果】

4グループに分けることにより、それぞれの実習を短時間の中で行うことができた。また、実習だけでなく自衛隊の救助活動等の話を聞いてもらいながら行うことができ、防災意識を高めることにつながった。

一人一人が積極的に実習に取り組める環境が作れたため、見ているだけでなく、実技を通して知識や技術を学ぶことができた。

【課題】

1グループあたりの人数を少なくし、さらに実習時間を多くとることで、より実践的な知識や技術を学ぶことができると感じた。実際に救助活動等の実体験をもとにした講話の時間をとることにより、災害時の行動について深めることができたのではないかと思います。

南部高等学校龍神分校

実施日時	令和7年10月30日（木）	18:00~20:40
参加者	龍神分校 23名（生徒20、教職員3）	地域住民 20名 自衛隊員 数名
実施内容	自衛隊員による防災講話、応急手当、担架作り 等	

ねらい

- 1 避難所での生活の様子を知ること、避難所で必要なものを知る。
- 2 もしもの時に役立つ知識を学ぶ。

主なプログラム

- 1 防災講話
- 2 応急担架の作り方
- 3 応急処置の仕方

概要

- 1 自衛隊員による防災講話
- 2 身近なものを利用したグッズ作り
ビニール袋を使った防寒具作り
新聞紙を使用したスリッパ
毛布と棒の応急担架の作り方
- 3 応急処置（止血法）の仕方

参加者感想文

- ・もしもの時は龍神村で活躍できるのは自分たち高校生なので、気を引き締めて参加した。
- ・自衛隊員の方の経験に基づく講話で、救助をするだけでなく、救助活動の最初の道筋をつくることから始まるのがすごいと思った。
- ・応急処置 止血の仕方は災害時だけでなく知っているのと役に立つ。

成果と課題

【成果】昨年度から防災学習が地域のPTA主催で参加者を募って開催されている。地域の率先避難者として防災リーダーとして、地域と学校が一体となって、1人1人ができることを確認できた。

【課題】

- ・防災意識の低下を防ぐ。
- ・各成長段階における避難所での役割分担。
- ・龍神村に高校生が減らないように。
- ・龍神地区の地域的な特徴で、道路が寸断されると救援を待つ間はその地域で耐えなければいけないので、自分たちでできることを考える。

参考写真



田辺高等学校・田辺中学校

実施日時	令和7年6月5日（木）、11月4日（火）
参加者	生徒 358名、教職員 13名、計 371名 *高1中1参加者
実施内容	・防災講演会 相澤 竜哉 氏（和歌山地方気象台長）による講演 ・「重ねるハザードマップ」を利用したリスク管理(避難など) ・簡易トイレづくり ・避難訓練 ・紀伊田辺駅での避難訓練(JR 西日本協力)

ねらい

- 1 紀伊半島は、地震・津波だけでなく、土砂災害のリスクも大きい地域であることを認識し、自分の住んでいる地域でどのようなリスクがあるかを確認し、適切な避難行動をとることができる。
- 2 中学生や高校生が避難時や避難時に出来る役割を理解し、率先して行動ができる。

主なプログラム

- 1 6月5日 5限 防災講演会
- 2 11月4日 1限
「土砂災害」「避難所のトイレ」
- 3 11月4日 2限 全校避難訓練

概要

1 防災講演会

南海トラフ地震が起こった場合の地域の災害リスクを認識し、命を守るための行動について学んだ。

2 「土砂災害」「避難所のトイレ」

① 土砂災害のリスクと避難

学校作成の土砂災害の映像（5分）を放映し、その恐ろしさを知るとともに、国土交通省の「重ねるハザードマップ」を用いて、本校周辺の土砂災害のリスクを把握した。

② 避難所のトイレ事情と簡易トイレの重要性

内閣府の「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」を用いて、避難所のトイレ事情と健康

リスク、簡易トイレの重要性を確認した。また、和歌山大学防災教育センター作成のマニュアルによる簡易トイレづくりを行った。

3 全校避難訓練

地震発生時の避難訓練と大津波警報発令時の高所避難訓練を行った。

◆JR 西日本による防災スクール

（2・3と並行して実施）

乗車時に発災した場合の避難の方法や、高校生も率先者として他の乗客の避難を手伝えるよう、避難はしごの設置方法や誘導方法について学んだ。

参加者感想文

- ・当事者意識を持ち、ハザードマップなどを使って家族と避難場所を確認し合ったり、防災バックを用意したりして、災害に備えておきたいと思った。
- ・避難訓練は定期的にあるため慣れたものだと思っていたが、実際に災害が起こった時に“大丈夫だ”と思い込んでしまうかもしれないということに気づいた。想定にとらわれずに自助や共助、公助を心がけていこうと思った。

成果と課題

【成果】災害発生時に自分がどのような行動を取るべきか、様々な場面を通して認識することができた。

【課題】トイレ作りに加え、応急手当等の内容も実施できればと考える。

田辺工業高等学校

実施日時	令和8年2月4日（水）
参加者	生徒110名、教職員10名
実施内容	段ボールベッド作り、止血法、ロープワーク、担架作り 等

ねらい

- 1 災害発生時に備えて、応急処置や避難所生活の知識など、生徒たちに生き抜く力を身につける。

主なプログラム

- 1 講演
- 2 段ボールベッド作成、止血法、ロープワーク（止血法）、担架作り、モールス信号

概要

- 1 災害時における自衛隊の活動について全体で聴講
- 2 各クラスで4班に分かれ、各パートで体験学習

参加者感想文

- ・止血方法を覚えた。脈を測ることが難しかったが本番のために覚えておきたい。
- ・毛布で作った担架の簡単さに驚いた。
- ・自衛隊員の講話を忘れずに覚えておきたい。家族にも話をしたい。

成果と課題

【成果】

- ・4パートで分かれて行うことで、効率よく体験を行うことができた。
- ・実践的な活動をとおして、実際の場面で役立つ知識と意識を持たせることができた。

【課題】

- ・各班とも体育館で一斉に行ったことで、それぞれの声が反響して聞き取りづらい場面があった。
- ・学習班をクラスごとではなく、全クラスを混合のグループにした方が落ち着いて話を聞けた可能性がある。

神島高等学校

実施日時	令和7年11月5日(水)
参加者	生徒700名、教職員18名 計718名
実施内容	避難経路確認・防災啓発動画上映

ねらい

近い将来発生が予想される大地震や大津波から、安全に“逃げ切る！”ため、生徒各自による速やかな避難行動への意識を高める。

主なプログラム

- 1 避難経路確認
- 2 防災啓発動画視聴

概要

1 5限目に以下の①～②を行う。

- ① 各 HR 教室でマップをプロジェクターで映しだし、避難先の田辺高校まで複数の避難経路があることを確認し、避難時の注意点を学習する。
- ② 気象庁制作の YouTube 動画「津波に備える(約 19 分)」の視聴と KAB 熊本朝日放送制作の YouTube 動画【防災クイズ】地震編「もし地震が発生したら?(約 10 分)」の視聴で認識を深める。

2 6限目に生徒が各自最適と思われる経路を歩いて速やかに田辺高校まで避難し、Form で到着時に安否確認と帰校後にアンケートを実施する予定であったが、雨のため中止とする。

成果と課題

【成果】

- ① の成果は、地図で避難ルートが複数あることを確認し、それぞれのルートに色んな危険性があることについて話し合うことができた。
- ② の成果は、津波から命を守るために備えておきたい津波の知識や避難のポイントを実際の映像やCG、インタビューにより分かりやすく学習できた。更にクイズでは、色んな場面での「もし地震が起こったら？」を生徒と一緒に確認できて良かった。

【課題】

6限目に地域(文里町内会の住民やふたば作業所の従業員)の方々と日時を合わせて、避難訓練を行う予定であったが雨のため中止となった。雨天時の避難訓練をどのように行うかが、今後の課題である。

熊野高等学校

実施日時	① 令和7年11月 5日(水) ② 令和8年 3月13日(金)・17日(火)
参加者	① 生徒572名(高1・2・3・専1)、教職員60名 計632名 ② 生徒188名(高2)、教職員20名 計208名
実施内容	① 地震・津波避難訓練 ② 救急救命講習

ねらい

① 地震・津波避難訓練

「世界津波の日」に避難訓練を実施することにより、先人を偲び地域防災の担い手となる意識を育む。

② 救急救命講習

日常生活における事故防止の訓練を実施することにより、地域防災の担い手となる意識を育む。

主なプログラム

① 地震・津波避難訓練

- ・情報伝達訓練
- ・シェイクアウト訓練
- ・避難訓練
- ・防災ミニ講座

② 救急救命講習

- ・応急手当の必要性(ビデオ講習)
- ・心肺蘇生法(説明・実技)
- ・AED(説明・実技)
- ・異物除去および止血法(説明・実技)

概要

① 地震・津波避難訓練

全校生徒を対象に(専2を除く)行った。

気象庁による訓練用の緊急地震速報発表と同時に机の下に隠れて身の安全を確保し、避難経路を通過してグラウンドへ移動した。安否確認を行った後、本校社会科教諭が濱口梧陵の偉業と津波避難3原則等について説明を行った。



② 救急救命講習

2年生を対象に心肺蘇生法およびAEDの操作方法に関する実技講習を受けた。毎年、田辺消防署上富田分署の隊員の方々からきめ細やかな指導を受けられる貴重な機会となっている。また、本校サポーターズリーダー部が作成したAEDシートについても使用方法が部員から説明があった。3クラスずつ2日に分けて講習が実施された。



参加者感想文

① 地震・津波避難訓練

本当に地震が起きた時も焦らず、落ち着いて行動することが大切だと思った。年々南海トラフ巨大地震発生確率が高くなってきているため、まだ大丈夫と思わず、真剣に自分の命を守るための行動をしなければならないと改めて感じた（高1女子）。

② 救急救命講習

もし自分がその状況になったらパニックにならず落ち着いて、今日習ったことをしっかり実践できるようにしたいです。それが家族かもしれないし、知らない人かもしれないけれど、8分以上時間が経ってしまったら助けられる可能性は低くなるので、救急車が来るまでに少しでも出来ることを考えて行動したいと思いました（高2女子）。

成果と課題

① 地震・津波避難訓練

【成果】

生徒に事前に知らせず抜き打ちで行ったため、緊張感を持って実施できたようだ。改めて濱口梧陵の偉業、津波避難3原則を

確認することが出来たのは有意義であった。

【課題】

地域防災の担い手としての自覚を高めるためには、もっと大規模に行う必要がある。本校では3年に一度、上富田町と合同防災訓練を実施している。

② 救急救命講習

【成果】

全員が実技を行うということもあり、和やかななかにも緊張感の感じられる有意義な講習であった。過去に経験がある生徒も多いようだが、高校生として改めて講習を受けることで、その知識や技術が定着したと思われる。今後も大切な講習として続けていきたい。

【課題】

いざという時に落ち着いて行動するためにも、定期的に講習を受けるべきである。地域防災の担い手としての自覚を高める工夫が必要である。

串本古座高等学校

実施日時	令和7年8月1日（金）
参加者	生徒61名、教職員11名 計72名
実施内容	避難はしご組み立て、緊急停車した列車からの飛び降り体験、津波避難訓練等

ねらい

- 1 防災の知識を身につけ、様々な状況の災害に対応できる力を養う。
- 2 鉄道乗車中における災害時に、生徒自身が地域の率先避難者となれるよう防災意識を高める。

主なプログラム

- 1 紙芝居や列車を使用し、避難はしごの組み立てや使い方、飛び降り体験を行う。
- 2 南海トラフ沖地震を想定した津波避難訓練を行う。

概要

- 1 避難はしご組み立て
列車内に備え付けられた災害時の車外への避難用のはしごの使い方を学んだ。
- 2 津波避難
列車乗車中に地震とそれに伴う津波が発生したことを想定し、避難はしごを用いた列車外への降車、列車からの飛び降り体験をした。
- 3 事後アンケート
JR 西日本から今回の避難訓練についてのアンケートが行われた。

参加者の感想

- 電車内で災害が起こったときの行動について学ぶことができてよかった。
- 緊急停車したときの扉の開け方について学べる貴重な機会だった。
- お年寄りも多い地域であることから、自分たちが率先して避難する姿勢を見せていきたいと思った。

成果と課題

【成果】

本校は沿岸部に位置しており、南海トラフ巨大地震等でも津波による浸水被害、液状化現象等が予想される地域であることから、地震津波に関して日頃から関心を持ち防災教育を行っている。今年度も、昨年に引き続いて JR 西日本との協力で、津波災害を想定した列車からの避難について学習を行った。本校には多くの列車通学生が在籍しており、列車を利用する生徒が災害発生時に地域の率先避難者となれるよう避難はしごの利用訓練や飛び降り体験、津波避難訓練を行った。また、事前学習により、南海トラフ巨大地震への備えについて学習した。生徒からは「電車内で災害が起こることを考えたことがなかったので良い機会となった」「実際に体験する形で訓練することができたので今後も続けてほしい」などの感想が寄せられた。

【課題】

本校の立地から、巨大地震発生時の対応について不安を感じている職員・生徒も多い。本校が3～5Mの浸水域にあり、1cm以上の津波が最短8分で到着する場所にあることや、串本町内の県道・国道の55%が30cm以上の浸水、21%で液状化が起こると予測されていることから、大変深刻な立地条件であることを全職員で共通理解しなければならない。今後は、本校に隣接する串本中学校や近隣住民を含めた大規模な避難訓練を計画していくべきであると考え。

新宮高等学校

実施日時	令和8年1月28日(水)
参加者	生徒200名、教職員10名、地域住民等12名 計222名
実施内容	防災について生徒発表、ロープワーク、簡易担架搬送、防災出前講座、列車緊急避難

ねらい

- 1 本地域は、南海トラフ地震や豪雨災害など大きな災害が想定される地域である。生徒一人一人が命を守るための行動力や災害時に対応できる知識と実践力を身につけ、日常から防災意識を高める事を目的とする。

主なプログラム

- 1 防災についての発表
- 2 自衛隊より簡易担架の作成・運搬
- 3 自衛隊よりロープワーク
- 4 JRより電車内からの緊急避難
- 5 新宮市役所より防災出前講座

概要

- 1 地理総合の授業内で防災について各クラスグループ学習を行った。各クラスから代表グループ1班(5クラス)が、学年全体に発表した。普通科3クラスは地域探究の視点から、地域の防災について、2011年紀伊半島大水害について実態調査とその後のインタビューを行い、考察した。学彩探究科2クラスは2011年紀伊半島大水害より、その時の様子を実際の写真で現在の場所との比較や災害になるメカニズムなど、一次災害から二次災害についての考察から探究を行った。

- 2 簡易担架の作成・運搬については、自衛隊員の協力のもと、竹棒と毛布で簡易担架の作成方法と、運搬の仕方を実践的に学んだ。
- 3 ロープワークについては、1人1本用意していただき、2本のロープを1本に結ぶ、本結びや柱に縛る、巻き結びを実際に練習した。
- 4 JRの協力のもと、舞台から緊急用のはしごを用いて、列車から緊急避難の仕方を学んだ。
- 5 新宮市役所より、将来この地域で起こるであろう、大地震について、詳しく学んだ。また、2011年に起きた紀伊半島大水害について、行政の視点から当時の様子や今後の避難の仕方についてスライドを用いて学んだ。

参加者の感想

- ・前半のみんなの発表から実際の様子が写真などから見ることでよく分かった。また、後半では布と竹などで担架が簡単に作れることなど身近なもので作成できることが知れた。高校生として、率先避難者になれるように今後の防災意識を高めていきたい。(1年生生徒)

成果と課題

【成果】

前半は地理総合の授業で防災や災害についてのグループ学習の発表をした。授業内での調べ学習だったので、全員が必要な知識を習得することができた。また、外部から来ていただいた、自衛隊員、JRの駅員、新宮市役所防災課の方々から、発表についての講評をもらうことで、普段とは違う視点から、防災についての知識や、発表の仕方など、勉強になることが多くあった。

後半では、4つのブースに分かれて、それぞれ実際に体験したり、講義を聴いたりして、より具体的に勉強することができた。普段、体験できないことを体験することで、被災したときのイメージが分かり、いい機会となった。

【課題】

防災意識を高めるということで、いろいろな体験活動することができる時間を確保したい。実際に想定できる被災状況から、どんなことが起きるのか、どんなことが困るのか等、生徒に考えさせる、振り返りの時間も設定できればよかった。

※当日の様子



【写真1】布担架作成・運搬



【写真2】ロープワーク



【写真3】列車からの緊急避難体験



【写真4】各班の発表

新宮高等学校（定時制）

実施日時	令和7年12月22日（月）
参加者	生徒26名、教職員8名、計34名
実施内容	1年間の訓練を通して振り返り、防災クイズによる学習

ねらい

- 1 防災に対する意識を高める。
- 2 被災時に救援活動に参加する意識と技術を身につけさせる。

主なプログラム

- 1 5月7日（水） 地震避難訓練
20:30 緊急地震速報
20:35 教頭による校内放送の指示とともに担任の誘導で3棟屋上へ避難開始。各担任の点呼後、訓練の意義と避難場所の説明を行い、避難経路と場所を知る。
- 2 9月3日（水） 火災避難訓練
18:00 火災警報発令緊急放送「これは訓練です。校舎第3棟3階より出火しました。現在まだ火災は大きくなっていません。生徒の皆さんは担任の先生の指示に従って、すみやかに体育館前に避難してください。」
同時に、教頭より新宮消防署に通報訓練。生徒は HR 担任の誘導で体育館前に避難する。
18:10 消火訓練 その場で消化器の使い方等について消防隊の指導を受け、理解を深める。
18:35 火災からの避難についての動画鑑賞 火災からの避難について意

識と知識を高める。

- 18:45 煙避難体験 火災発生を想定し、各学年2～3人一組となって煙からの避難を体験する。
- 3 11月5日（水） 地震津波避難訓練
20:30 大地震発生・大津波警報発令
各教室で机の下に隠れ頭部を守る。
20:35 担任の指示で避難開始。停電を想定して廊下・ベランダの電気は消しておく。
避難の際、HR委員長（または代理）は、教室入り口の常夜灯を持つ。
他の生徒はスマートフォンの電灯機能を利用する旨を伝える。
HRを消灯する（担任）。
雨天のため、3棟2階トイレ前→3階廊下まで避難する。
20:45 視聴覚3に集合、防災に関する動画を視聴。
並行して、アルファ米の炊き出し・配膳訓練を行う。
- 4 12月22日（月）防災スクール
18:00 1年間の訓練等の振り返り。
18:15 防災クイズ（4択問題）。
18:35 感想文記入（1年間の避難訓練・防災学習を通して）

概要

- 1 地震を想定しての避難訓練を通して避難経路・避難場所の確認
- 2 火災発生を想定した避難訓練・消火訓練、煙体験と防災学習（火災からの避難についての動画鑑賞）
- 3 世界津波の日における、授業中の停電を想定した地震・津波避難訓練、炊き出し訓練
- 4 1年間の振り返り、防災クイズ

参加者の感想

- ・防災で学んだことを思い出して、実際に災害が起ころうとしてもそれをできたらいいなと感じました。（1年女子）
- ・消火訓練で消火器を使ったことがとても良い経験になった。（2年男子）
- ・普段から定期的に訓練や学習を行うことで、実際に火事や災害が起こったときにパニックになりづらくなるので良いことだと思いました。（3年女子）
- ・ためになりました。4年間の防災の知識を忘れず、いざとなった時に使おうと思います。（4年女子）

成果と課題

【成果】

- ・1年間の取組を通して、防災に関する知識と意欲・意識を高めることができた。
- ・火災や地震など、災害時の避難場所と避難の方法を理解習得させることができた。

【課題】

- ・生徒会と連携し、よりいっそう生徒の自主性が発揮できる内容を模索したい。

夜の屋上に避難



訓練用消火器を使っでの消火訓練



アルファ米の炊き出し訓練



新翔高等学校

実施日時	令和8年1月23日（金）
参加者	生徒60名、教職員5名、計65名
実施内容	非常食試食、ロープワーク、簡易担架作成・搬送、応急救護

ねらい

- 1 近い将来発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる地域防災リーダーを育成する。
- 2 関係機関や地域の協力、連携のもと、災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得する。

主なプログラム

- 1 非常食試食
- 2 防災講話
- 3 班別学習(ロープワーク、簡易担架作成・搬送、応急救護)

概要

- 1 開催日 令和8年1月23日（金）
12:00～15:10
- 2 参加者 生徒64名（第1学年）、教職員
- 3 実施内容
 - ・非常食試食
 - ・全体学習 防災講話
 - ・班別学習 ①ロープワーク
②簡易担架作成・搬送
③応急救護
 - ・まとめ、感想文

参加者の感想

- ・防災に関する知識が増えて良かった。これをまた家族に教えたりしたら、被害が減っていくと思う。
- ・非常食ってだけでいやなイメージがあったが、今日でいやなイメージは無くなった。

成果と課題

【成果】

受講者は、防災・減災に関する専門的な知識や技術を学び修得することができた。また学んだことを実践に生かそうとするなど、防災に対する意識が高まっていた。

【課題】

実習ではさらに緊張感を持たせることを念頭において、実際に災害が起こった想定の中で学習していきたい。



伊都中央高等学校

実施日時	令和7年9月19日（金）
参加者	生徒150名、教職員28名、計178名
実施内容	地震体験車、救命救急講習、新聞紙を活用した非常時の豆知識、防災啓発動画の視聴、非常食の紹介等

ねらい

- 1 近い将来予想される南海トラフ大地震を始め、自然災害に備えて高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。

主なプログラム

- 1 地震体験車「ごりょうくん」で地震体験
- 2 救命救急講習
- 3 「南海トラフ地震対策啓発ドラマ その日、その時、、、」動画視聴
- 4 新聞紙を活用した非常時の豆知識
- 5 非常食（アルファ化米・個包装）の紹介・持ち帰り
- 5 振り返り、感想記入

概要

- 1 昼間コースと夜間コースに分かれて実施した。
- 2 昼間コースは学年単位で動き、それぞれのプログラムの体験をローテーションを組んで実施した。
- 3 新聞紙を活用した非常時の豆知識の紹介はコミュニティホールにて、地震体験車は体育館前にて、救命救急講習は体育館にて、動画視聴は各 HR 教室にて実施した。

参加者感想文

<防災スクール全体を通して、あなたが学んだことは何か>

【1年生】

- 地震が怖いことを改めて理解したので、地震に備えて防災グッズなどを用意しておこうと思った。
- 地震や津波の怖さ、早く避難したり、災害に向けての対策をしたりの大切さが分かりました。
- 地震や津波に遭うと、望まない避難生活を強いられること、めまぐるしく環境が変わることは怖いことだと感じた。この怖さと向き合い、臨機応変に対応することにつなげていきたい。
- 地震についてあまり考えることはなかったけれど、これを機に考えようと思った
- 地震などの自然災害の大変さがわかった
- 本当に地震が起こった時にできるように今日学んだことを覚えておくようにする
- 心肺蘇生の方法を習ってとても勉強になった

【2年生】

- ・地震の時自分がどう行動するべきか改めて考えることができて、揺れるときの怖さも改めて知ることができた。
- ・防災対策の意識を高めることでより多くの命を守ることにつながることを学びました。
- ・命の大切さや、もし災害などが起こった時に役立つことを学びました。
- ・少しの知識があれば人の命を助けることが可能になるということを学びました。
- ・日々の備えの大切さを実感した。
- ・地震はいつくるか分からないので対策しておこうと思った。

【3, 4年生】

- ・地震対策をしっかりしようと思った。
- ・AEDを使用した救命救急講習では、たくさんの人を救えると思いました。
- ・自分にもできる役割を探して防災に参画することの重要性を学んだ。
- ・改めて地震の怖さを知ることができた。日頃からの対策や正しい知識を身につけることが大切だと感じました。
- ・日頃から貯蓄や災害に対する意識は持たないといけないと思った。

成果と課題

【成果】

- ・2年生以上は昨年も地震体験車で体験を実施したが、南海トラフ地震を想定しての体験として、真剣に取り組むことができていた。
- ・救命救急講習は、実際の場面を想定しながら緊張感を持って取り組むことができ、心肺蘇生の方法をしっかりと学ぶことができた。
- ・仲間とともに取り組むプログラムが多くすることで、コミュニケーション力を養い、自分と違う意見も尊重する態度を身につけることができた。
- ・身近なもので防災グッズを作れることで、家でも準備できると感じた生徒が多かった。

【課題】

- ・地域の防災課題に取り組むなど、より地域に目を向けた防災活動を検討していきたい。





きのくに青雲高等学校（定時制）

実施日時	令和7年10月31日（金）、11月5日（水）
参加者	生徒121名、教職員40名、地域住民11名 計172名
実施内容	アルファ米の調理、防災に関するパネル作成・展示、避難訓練

ねらい

1. 地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。
2. 近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え防災意識を高め、スムーズに行動できるよう避難経路や避難行動を確認する。

主なプログラム

1. アルファ米を使った実習、防災に関するパネル作成・展示。
2. 避難訓練。

概要

1. 災害に備えるため、アルファ米を調理し使えるようになっておく。また、防災に関するパネルを作成し、展示する。
2. 地震等の災害発生、火災発生による避難を想定した訓練。シェイクアウト訓練。

参加者の感想

- 訓練なので落ち着いて行動できた。
- 日頃から避難経路を確認することの大切さを知った。
- アルファ米を使った料理はおいしかった。
- 実際の地震では、うろたえて、うまく行動できない気がする。

成果と課題

【成果】

- ① 避難訓練等の防災教育をすることによって、災害についての知識をもち、災害に備える意識を高め、災害から命を守ることの大切さを学ぶことができた。
- ② 災害避難時における生活について具体的な知識を広げ、意識を高めることができた。

【課題】

- ① 概ね真面目に取り組んでいたが、訓練であるため、緊迫感のない生徒もいた。緊張感をもった行動を取るための工夫が必要である。
- ② 実際に地震等の災害が起こった時に、その場の状況に応じて臨機応変に判断・行動・対応できる能力を養わなければならない。

きのくに青雲高等学校（通信制）

実施日時	令和7年5月11日（日）
参加者	生徒158名、教職員23名 計181名
実施内容	避難訓練 および 講話

ねらい

- 1 避難経路の確認をするとともに、迅速な避難行動の習得や安全意識の向上を図る。
- 2 近い将来に発生が予想される南海トラフ地震や、その他の自然災害に備え、防災意識を高める。

主なプログラム

- 1 避難訓練
- 2 南海トラフ地震に関する講話
- 3 防災ハンドブックの案内

概要

- 1 地震発生の放送後、机の下に避難し、揺れが収まった時点（放送）で避難経路を確認しながらグラウンドへ集合。教員は生徒の安否確認と人数確認を行い、指揮担当（教頭）に報告。
- 2 校長より、南海トラフ地震に関連した防災意識を醸成する内容の講話。
- 3 訓練当日、スクーリングに出席しない生徒もいたため、本校ホームページにおいて防災ハンドブックの案内。



成果と課題

【成果】

- 校内避難経路の確認ができた。
- 教職員の役割分担を再認識でき、連携を強化することができた。
- 南海トラフ地震に対する危機意識を高められた。
- ホームページで防災ハンドブックを案内することで、出席していない生徒や保護者に対しても防災について啓発できた。

【課題】

- 通信制課程のシステムでは、その日に出席している生徒のみ訓練を行うため全校生徒に避難経路を周知するのが難しい。
- 通信制課程では、ホームルーム単位で活動することが少ないため、生徒の出席状況を即座に把握しにくい。

南紀高等学校

実施日時	令和7年4月24日(木)、10月1日(水)、2日(木)、14日(火)、21日(火)、11月4日(火)、5日(水)
参加者	生徒102名、教職員25名、計127名
実施内容	地震シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所運営ゲーム訓練、救急救命講習、アルファ米作り、映像視聴 等

ねらい

1. 実施形態

定時制昼間部、定時制夜間部の課程別に生徒の実態に即した実施形態とするため、特定の日に絞らず、複数回に分散して実施した。生徒部を中心に担任や関連教科の教員が担当を分担する形式で準備を進めた。

2. 使用教材

「きいちゃんの災害避難ゲーム」、防災ハンドブック、世界津波の日パンフレット等

防災倉庫の場所の確認を行った。

生徒21名

2. 10月1日(水)(昼間定時制)

火災を想定した避難訓練を実施した。事務室付近での火災発生に伴う避難経路の確認を行った。

生徒85名

3. 10月1日(水)(夜間定時制)

大地震後の停電と津波を想定し、屋上への避難訓練を実施した。夜間定時制の活動時間を踏まえ、暗闇の中を非常用ライトで照らしながらの避難訓練を行った。

生徒21名

4. 10月2日(木)(夜間定時制)

「きいちゃんの避難所運営ゲーム」を用いて災害が起きて避難所で生活する際にどのように対応し、その状況を乗り越えていくのかを考えるシミュレーション学習を行った。

生徒21名

5. 10月14日(火)、21日(火)

(昼間定時制)

田辺市消防本部による救急救命講習の事前学習として、Eラーニングによるビデオ学習及びテストを受講した。

生徒22名

6. 11月4日(火)(昼間定時制)

1年生は、田辺市消防本部による救急救命講習を受講。AEDの使用法、胸部圧迫法、止血法等を学習した。

2年生は、西牟婁振興局から借用した「きいちゃんの災害避難ゲーム」を用いて、災害避難に関する事前準備の大切さを学んだ。また、災害時を想定し、アルファ米を水で戻した。

主なプログラム

1. 防災点検(夜間定時制)

2. 火災避難訓練(昼間定時制)

3. 大地震・津波避難訓練(夜間定時制)

4. 「きいちゃんの避難所運営ゲーム」(夜間定時制)

5. 救急救命講習事前学習(昼間定時制)

6. 救急救命講習及び「きいちゃんの災害避難ゲーム」、「きいちゃんの避難所運営避難ゲーム」(昼間定時制)

7. 地震シェイクアウト訓練(昼間定時制)

概要

1. 4月24日(木)(夜間定時制)

大地震や津波などの災害が発生した場合に備え、非常用ライトの点検と点灯を行い、実際に非常用ライトの照明のみを頼りに校内を巡りながら、避難場所やAEDの設置場所・

3、4年生は、「きいちゃんの避難所運営ゲーム」を用いて、様々な状況に応じて、どう避難所を運営していくか、また避難する上でどういうことが重要になるかについて学んだ。あわせてアルファ米を水で戻した。

生徒85名

7. 11月5日(水) (昼間定時制)

地震シェイクアウト訓練において命を守る3動作を意識して体育館に避難した。

生徒85名

参加者感想文

- ・事前準備をしないとするのは大きな違いがあった。それを踏まえて日常から何かあった時のために備蓄品を準備すると同時に気持ちの面でも準備をしようと思った。
- ・自分の命を第一に考えたいとも思った。家族やご近所の方の安全も十分大事ですが、周囲の安全を確保するにしても自分の命がなければできないのでそこも考えて判断したいと思いました。
- ・津波が起きた際の命を守る優先順位の大切さが理解できた。
- ・いつどこで起きるかわからないので、日頃から高台、避難場所などの確認の大切さがわかった。

成果と課題

【成果】

- ・災害避難ゲームでは、楽しみながら地震や津波への対応について学び、現実性を持って取り組むことができてよかった。
- ・毎年行うことで防災のための意識が高まり「訓練のための訓練」ではなく、日頃から様々な危機意識を持つきっかけができてきている様子がみられてよかった。
- ・防災ゲームを通じて適切に避難するなど自ら

の判断で主体的に行動できる場面などが見れた。また、防災学習を通じて学校生活の中で様々な事に対して友達と協力しながら主体的に取り組める場面が少しずつ見られるようになってきた。

【課題】

- ・登下校中における各自の避難経路の認識や避難マップの作成など、個人に応じた具体的で実践的な学習内容の充実を図りたい。
- ・被災後の生活は長くなるため社会制度や補償制度について知見を深められるような取組を考えていく必要がある。
- ・安否確認方法(災害伝言ダイヤル)などの使用方法などについても確認していきたい。
- ・災害時には、地域同士での助け合いなどがとても大切になるために、学校周辺地域の方々にも参加をしていただく機会なども考えていきたい。

防災学習の様子

防災点検(夜間定時制)



きいちゃんの避難所運営ゲーム(夜間定時制)



大地震津波避難訓練（夜間定時制）



アルファ米づくり（昼間定時制）



きいちゃんの災害避難ゲーム（昼間定時制）



救命講習（昼間定時制）



南紀高等学校（通信制）

実施日時	令和7年11月2日（日）
参加者	田辺学級生徒23名、新宮学級生徒12名、教職員9名、計44名
実施内容	避難訓練、防災学習

ねらい

- ・近い将来発生が予想される南海トラフ地震を想定して、そのメカニズムや正しい防災の在り方を学び、防災意識の向上を図ると共に、社会に貢献できる力を習得することを目的とする。

主なプログラム

- 1 シェイクアウト訓練
- 2 地震、津波についての基礎講座
（防災ハンドブック、津波の日リーフレットの配布、地域のハザードマップ等の活用）
- 3 啓発DVDの上映

概要

- 1 地震、津波が発生した場合の避難訓練
 - ・教室の机の下に避難、「まず低く、頭を守り、動かない」を指示
 - ・避難経路の確認
- 2 基礎講座
 - ・動画「南海トラフ巨大地震」（約15分）
 - ・和歌山県における避難先の考え方の説明
 - ・防災ハンドブックを活用し、地震発生時の行動などの説明と確認
 - ・地域のハザードマップの確認

成果と課題

【成果】

- ・地震速報からの一連の動きが体験できた。
- ・非常持出品や非常備蓄品の確認などができた。
- ・地域の避難場所や津波到達時間などを確認できた。

【課題】

- ・多くの生徒が参加しての防災学習が困難である。（通信制課程なので）
- ・実際の揺れの激しさや、揺れの時間が体験できるような機会があればと考える。

和歌山ろう学校

実施日時	令和8年1月13日（火）
参加者	生徒6名、教職員5名、JR和歌山駅職員 多数 計11名+多数
実施内容	災害時の降車訓練 等

ねらい

- 1 通学時に災害が発生した場合を想定し、JR和歌山駅職員の誘導の下、指示に従い安全に避難する。
- 2 災害に備え、JR和歌山駅職員と緊急時に課題となる点を共通理解し改善につなげる。

主なプログラム

- 1 降車訓練
- 2 線路落とし物キャッチャー体験

概要

- 1 災害発生のため、和歌山駅手前で電車が緊急停車したと想定。ろう学校生は近くの乗客に何が起こったのか等自分から情報を確認する。
- 2 駅員誘導の下、安全に降車し和歌山駅まで移動する。
- 3 線路に物を落とした場合、どのような対応をするのか確認、体験する。

参加者の感想

- ・電車内の放送のみでは分からないので、自分から周りの人に情報を聞く必要性を感じた。携帯電話だけでなく、メモ等様々な物を活用して情報収集することが大切と思った。
- ・万が一、線路に物を落とした場合はすぐ駅員に連絡することが大切だと分かった。

成果と課題

【成果】

- ・乗車時に災害が起こり緊急停止した場合、受け身ではなく、自ら発信して情報収集や支援の要請等を行う必要性を理解する事ができた。

【課題】

- ・より安全に迅速に避難できるよう、継続した訓練が必要である。
- ・必要な支援等の充実について、今後も双方の連携が必要である。

紀北支援学校

実施日時	令和7年7月16日(水) 12月23日(火)
参加者	生徒 72名、教職員 33名、計 105名
実施内容	避難所体験(パーテーションで寝る、簡易トイレ、新聞紙スリッパで歩行、皿にラップをかけて使う)、新聞紙スリッパ作り、まくら作り、段ボールベッド作り、アルファ化米作り、ペットボトル浄水器作り

ねらい

- 1 体験学習を通して、防災への意識を持ちたり高めたりする。
- 2 防災グッズの作り方を知る。
- 3 地震が起こった時の対応について自分の意見を話したり他者の意見を聞いたりする。

主なプログラム

- 体育館
避難所体験(段ボールパーテーションで寝る・簡易トイレ・新聞紙スリッパで歩行・皿にラップをかけて使う)
- フリースペース
段ボールベッド作り
- 教室
アルファ化米作り、試食・新聞紙スリッパ作り、まくら作り、災害ゲーム体験
ペットボトル浄水器作り

概要

• 体育館の避難場所体験では、3つの項目を設置した。段ボールパーテーション体験では、室内に入りアルミブランケットを体に被せて寝る体験をした。簡易トイレではテントの中に設置されたトイレに座る体験をした。新聞紙スリッパ歩行体験では、スリッ

パを履いて歩行する体験をした。皿に自分でラップをかけて、繰り返し使える状態にする体験をした。

• フリースペースでは段ボールベッド作りを行った。箱に表記されている作り方をしながら組み立て、毛布をかけて完成させることができた。

• 教室でのアルファ化米作りでは、湯から作る生徒が多かった。その後、給食時に試食をした。新聞紙スリッパ作りやまくら作りでは、マニュアルに沿って作ることができた。災害ゲーム体験では、内容が難しく時間がかかり、時間内にやりきることができなかった。ペットボトル浄水器作りでは活性炭や砂利を入れて、汚水が綺麗になっていく様子を観察した。

参加者感想文

- アルファ化米は簡単にできておいしかったです。
- 新聞紙スリッパは、バラバラになってくる時があるから、テープを貼っておくと良かった。
- 手作りのまくらは、もっと中に新聞を入れた方が良かった。
- 簡易トイレが本格的だった。

- ・簡易トイレでうんちができない。
- ・段ボールベッドは作るのが簡単でした。
- ・汚水が活性炭などで綺麗になることを知ることができた。

成果と課題

【成果】

災害が起きたときの対策法についてクラスで考え、実際の体験に取り組んだ。具体的な活動に取り組むことで、より防災についての意識を高めることができた。

【課題】

実際に災害が起きたときに、落ち着いて行動に移せるかが課題となる。そのためには、学校で実施している避難訓練だけではなく、社会や総合的な探究の時間などの他教科でも繰り返し指導を行う必要性を感じた。



たちばな支援学校（高等部）

実施日時	令和7年11月5日（水）
参加者	全校生徒138名（高等部57名）、教職員104名、 地域住民等約20名 合計 約262名
実施内容	地震津波避難訓練、避難生活体験、防災啓発動画視聴

ねらい

- 1 大地震発生直後の適切な行動選択と、その後起こりうる災害から安全に避難し、避難所生活で過ごす知識、技能、態度を養う。

主なプログラム

- 1 地震津波避難訓練
- 2 各学年での避難所体験学習

概要

- 1 各学年で防災啓発に関わる動画を視聴、避難所体験を実施。
- 2 全校児童生徒及び近隣の保育園、老人ホームと合同避難訓練の実施。（校外へ避難）
- 3 自主通学生を対象とした広川町とJR事業「車両から避難誘導訓練」に参加。

成果と課題

【成果】

- ・防災啓発の動画視聴では、避難方法やマイバックの準備、活用について考えられた。
- ・避難訓練では、定期的に取り組んでいることもあり、校外の避難場所へ落ち着いてスムーズに移動することができた。
- ・避難所での生活を想定した体験活動に取り組むことで、より具体的に防災を考えることができた。
- ・地域のJR車両からの避難訓練に参加したことで、通学や通勤時の緊急時の具体的な行動を理解し、見通しをもつことができた。

【課題】

- ・今回の経験を受けて、さらに防災に関わる様々な取り組みを検討し、より専門的な知識や技術の習得を目指していきたい。

みはま支援学校（高等部）

実施日時	令和7年11月18日（火） 11:00~12:10
参加者	生徒17名、教職員19名 計36名
実施内容	応急手当（講師：消防隊員）、アルファ化米の試食

ねらい

- 1 防災に対する意識を高める。
- 2 災害時における応急対応に関する知識、技能を学ぶ。
- 2 応急手当終了後、各ホームルームに戻り、非常食「アルファ化米」の試食を行った。実際にお湯や水で戻して食べることで、調理方法や味、食感を体験した。

主なプログラム

- 1 骨折及び止血の応急手当
- 2 アルファ化米の試食
- 3 振り返り（アンケートに記入）
- 3 試食後にはアンケートを実施し、訓練全体を振り返る時間を設けた。

概要

- 1 全校生徒を対象とした地震津波避難訓練の実施後、グループに分かれ、消防隊員の方々から助言を受けながら、実際のけがを想定した応急処置の方法を体験した。腕や脚を骨折した場合を想定し、新聞紙を添え木の代わりにし、タオルで腕を包み込むようにして固定する方法を学んだ。



参加者感想文

- ・ 応急手当のやり方が知れて良かった。
- ・ いざ、けがの場面を目の当たりにしたら、頭真っ白になりそう。
- ・ 一人で応急手当することは大変だった。
- ・ アルファ化米は思っていた以上においしかった。

成果と課題

【成果】災害時に落ち着いて行動することの大切さや、応急処置の基本的な知識と技術を身につけることができた。

【課題】今後もこのような訓練を継続し、万が一の事態に備えていきたい。